ALINCO

WIDE BAND COMMUNICATION RECEIVER

DJ-X11

取扱説明書

アルインコ　ワイドバンドレシーバーをお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。本機の性能を十分に発揮させるために、まずこの取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。
アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保管しておいてください。

This product is for the use only in Japan. The manufacturer declines any responsibilities against the claim for the use abroad.

アルインコ株式会社

もくじ

2-2 電波法上のご注意

この製品を使用するのに特別な資格や免許は必要ありませんが、電波法第59条は「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対しておこなわれる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」とし、第109条で「無線局の取扱中に係る無線通信の秘密を漏らし、又は窃用した者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と罰則規定を設けています。さらに第109条の2で「暗号(秘話)通信を受信した者が、その暗号通信の秘密を漏らし又は窃用する目的で、その内容を復元(秘話解除)した時は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と定めていますので、放送以外の無線通信を傍受される場合は電波法違反とならないよう十分にご注意ください。

2-3 お願いとおことわり

- 本機は厳重な管理の下に生産及び出荷されますが、万一ご不審な点やお気付きの点がありましたら、できるだけ早くお買い上げいただいた販売店または弊社営業所へご連絡ください。
- 本機は広帯域受信機のため本体の内部発振(スプリアス)によって、受信できない場合や雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。
- 付属の周波数データリストに記載された周波数はあくまでも参考のもので、付近の電波状況などの諸条件により受信できない場合があります。書店で販売されている周波数帳や受信ガイド、インターネット上にある情報などを参考に、必要に応じて修正してお使いください。
- 本書の説明用画面のイラストは、実際の画面とは字体や形状などが異なったり、一部の表示を省略したりする場合があります。本書の内容の一部、又は全部を無断転載することは禁止されています。内容に関しては万全を期しておりますが、誤りがあった場合や技術変更などに伴い、記述を予告なく変更する場合があります。乱丁、落丁はお取り替えいたします。

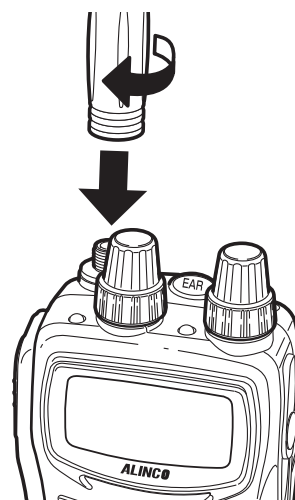
3. 付属品の取り付けかた

3

3-1 アンテナ

3-1-1 アンテナの取り付けかた

1 アンテナの根元を持って時計方向(右)に回します。

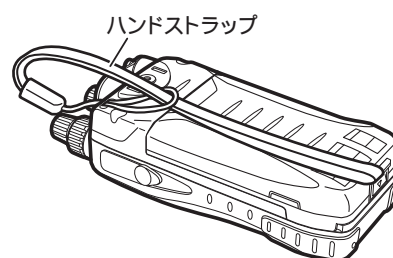
2 回転が止まったら、アンテナを確実に取り付けたことを確認します。

参考

・本機のアンテナは、折れにくくするため通常のものより柔軟な素材でできています。
・外部アンテナの接続にも、このコネクターを使います。

3-1-2 アンテナの取り外しかた

1 アンテナを反時計方向(左)に回します。

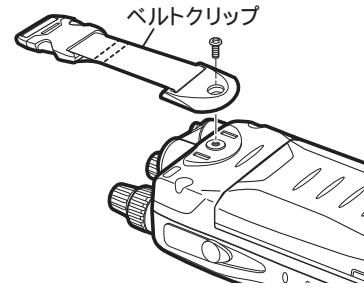
3-2 ハンドストラップ

1 ハンドストラップを本体背面の穴に図のように取り付けます。

3-3 ベルトクリップ

3-3-1 ベルトクリップの取り付けかた

1 ベルトクリップを本体背面の溝に合わせて固定し、ネジを時計方向(右)に回して取り付けます。

2 ベルトクリップを確実に取り付けたことを確認します。

※使用しているとネジが緩むことがあります。ときどき点検してください。
※ベルトクリップは、最大約8cm幅のベルトでお使いいただけるように調整できます。

3-3-2 ベルトクリップの取り外しかた

1 ネジを反時計方向(左)に回してベルトクリップを取り外します。

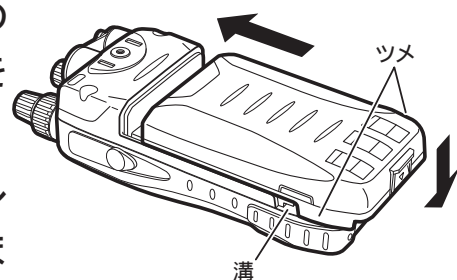
3-4 バッテリーパック

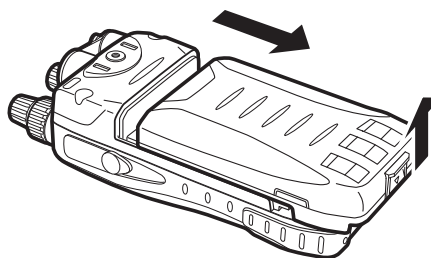
リチウムイオンバッテリーパック（EBP-74）の充電方法については「充電スタンドによる充電方法」（☞P18）と「DCジャックによるバッテリーパックの充電方法」（☞P17）を参照してください。

3-4-1 バッテリーパックの取り付けかた

1 バッテリーパックのツメを本体の溝に合わせ、バッテリーパックを矢印の方向に押し込みます（①）。

2 バッテリーパック底部のロックレバーを矢印の方向にスライドします（②）。

3

3-4-2 バッテリーパックの取り外しかた

1 バッテリーパック底部のロックレバーを矢印の方向にスライド(①)し、バッテリーパックを取り外します(②)。

注意

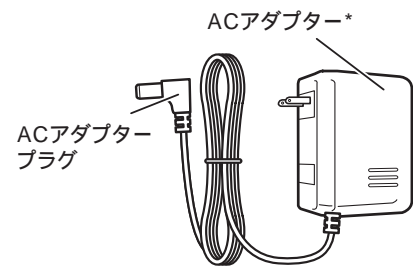
- バッテリーパックは出荷時には満充電されておりません。お買い上げ後に充電してからご使用ください。
- 充電は0℃～ 40℃の温度範囲内でおこなってください。
- バッテリーパックの改造、分解、火中・水中への投入は危険ですからしないでください。
- バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や､バッテリーの発熱による火傷の原因となることがあります。必要以上の長時間の充電(過充電)はバッテリーの性能を低下させますので避けてください。
- バッテリーパックの保存は、-10℃～ 45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの漏液や、金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
- バッテリーパックは消耗品です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取替えください。
- バッテリーパックはリサイクル資源です。再利用しますので、廃棄しないでバッテリーパック回収協力店へご持参ください。バッテリーパックは弊社製品専用です。対応の純正充電器または適合する受信機のみで充電できます。市販や他社製品の充電器やアダプターなどから充電すると､故障や事故の原因となることがあります。本体･バッテリーパックまたは充電器の電極の汚れを、ときどき乾いた綿棒などで取り除いてください。
- バッテリーパックをしばらく使用しないときは、バッテリーの劣化を防ぐため3ヵ月に一度充電してください。
- 付属のバッテリーパックはDJ-X11専用です。指定以外の充電器やアダプターなどから充電すると、故障や事故の原因となることがあります。

3-5 DCジャックによるバッテリーパックの充電方法

本機は、付属のACアダプターやDC電源(DC 6V、1A以上:IEC/EN60950規格)を使用し、本体を通して、付属のリチウムイオンバッテリーパックを充電できます。放電状態から約6時間で充電できます。

1 「バッテリーパック」(☞P15)を参照して、バッテリーパックを取り付けます。

2 ACアダプターのプラグを本機のDCジャックに接続し、ACアダプターをコンセントに差し込みます。

* 図のACアダプターは、同梱のACアダプターと形が異なる場合があります。

充電中の表示については「バッテリーレベルアイコン」(☞P20)を参照してください。

注意

・付属のACアダプターを接続した状態で、受信するとノイズを拾う可能性がありますが故障ではありません。

参考

・オプションのアクセサリーに同梱されている注意書もよく読み、正しく安全にお使いください。
・お使いのコンセントの電圧が不安定だと、充電器は正しく動作しません。

3

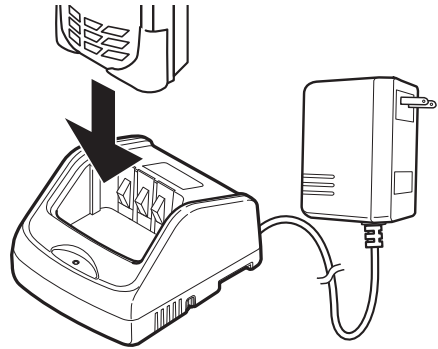
3-6 充電スタンドによる充電方法

付属の充電スタンドを使用すると放電状態から約4時間で充電できます。

1 充電スタンドにACアダプターのプラグを接続します。

2 ACアダプターをコンセントに差し込み、本機を充電スタンドに差し込みます。

充電中は充電スタンドの赤ランプが点灯します。

充電が完了すると消灯します。

参考

- 受信機にバッテリーパックを装着した状態でうまく充電できない場合は、バッテリーパック単体で充電して異常がないかご確認ください。
- オプションのPC接続ケーブル(ERW-8)を接続しても充電できます。(約8時間)

3-7 バッテリーパックのショート防止

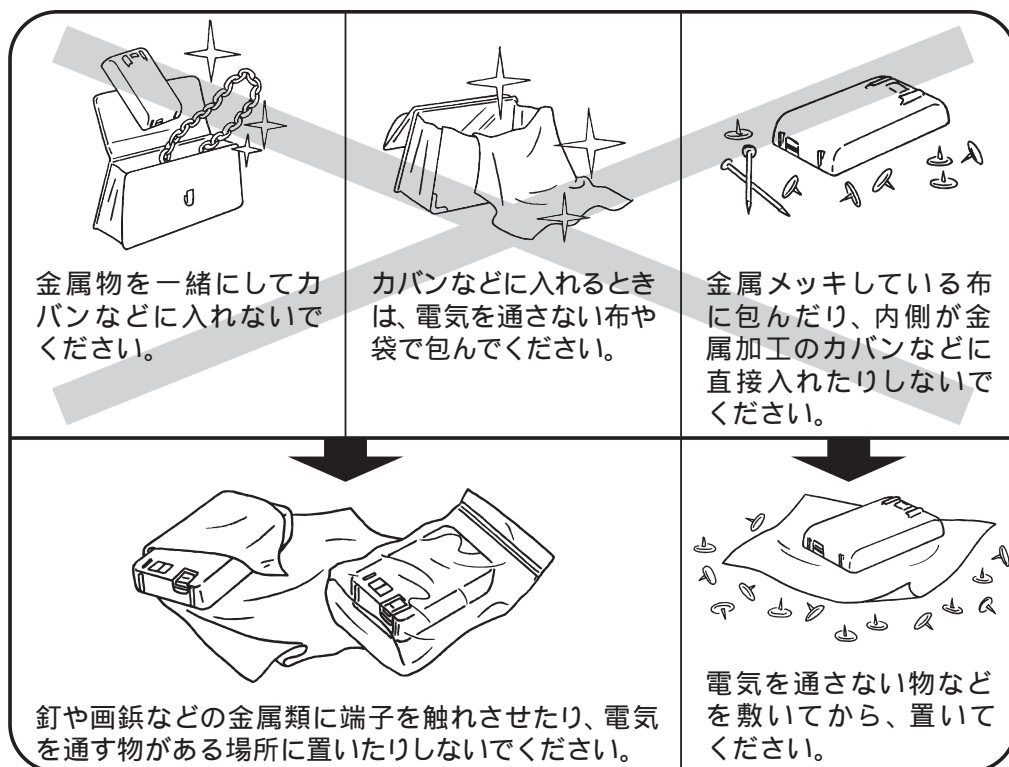
バッテリーパックを持ち運ぶときは、十分ご注意ください。ショートによって電流が急増し、発火の原因となることがあります。

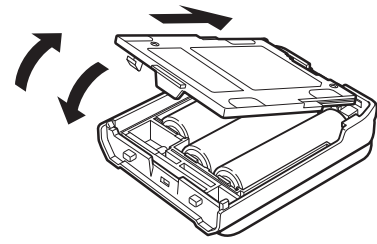
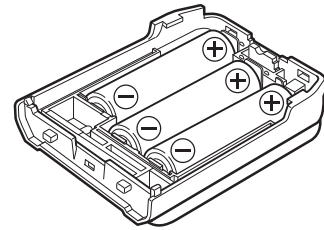
金属物を一緒にしてカバンなどに入れないでください。

カバンなどに入れるときは、電気を通さない布や袋で包んでください。

金属メッキしている布に包んだり、内側が金属加工のカバンなどに直接入れたりしないでください。

釘や画鋲などの金属類に端子を触れさせたり、電気を通す物がある場所に置いたりしないでください。

電気を通さない物などを敷いてから、置いてください。

3-8 乾電池ケース

1 ツメを持ち上げ(①)、カバーを取り外します。

2 単三形乾電池3本をケースにセットし、②→③の順にカバーを閉じます。確実に閉じていることを確認します。乾電池はアルカリ乾電池を使用してください。マンガン乾電池は使用できません。

参考

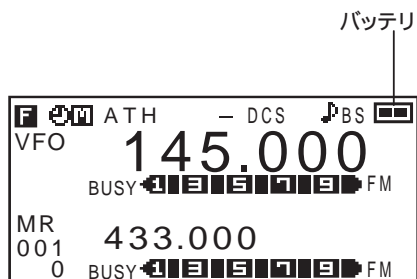
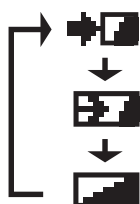
・乾電池を使用するときは「電池の設定」(☞P82)をご参照ください。

注意

乾電池ケースについて

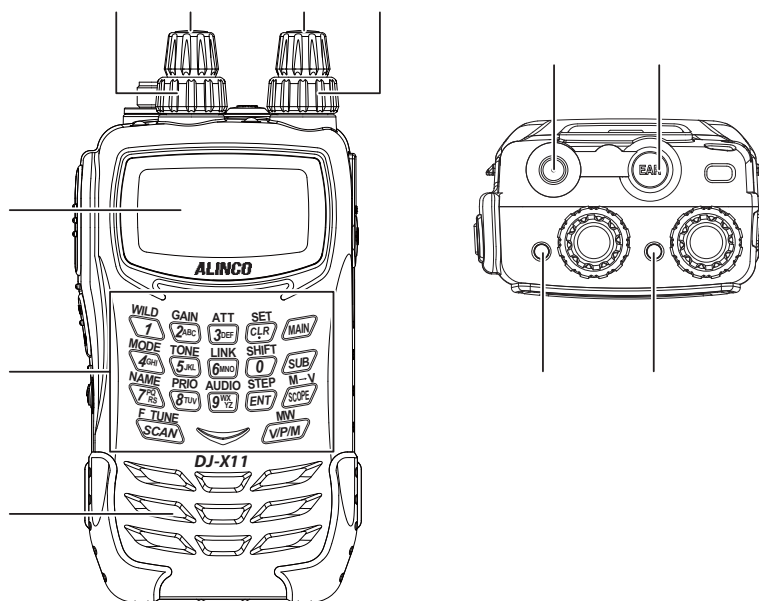
・＋/－の向きを間違えないようにご注意ください。漏電・発火・爆発の原因となることがあります。
・セットする乾電池は、タイプ・メーカーが同じで、新しいものを使用してください。
・電池を交換するときは、すべての電池を新しいものに換えてください。
・充電式電池はお使いになれません。充電式電池の使用の結果生じた、身体・財産へのいかなる損害・傷害についても弊社は一切の責任を負いません。
・乾電池と接する電極の汚れなどをときどき清潔な乾いた布や綿棒で掃除してください。
・間違ったタイプの電池と交換すると、爆発の原因となることがあります。

3-9 バッテリーレベルアイコン

本機のディスプレイに表示されるバッテリーアイコンは、バッテリーの残量を示します。バッテリーアイコンの中身が空になっているときは、バッテリーパックを充電するか、新しい乾電池と交換してください。

・本機の電源をOFFにしているときは、ディスプレイに「充電中」と表示されます。充電が完了すると「充電完了」と表示されます。

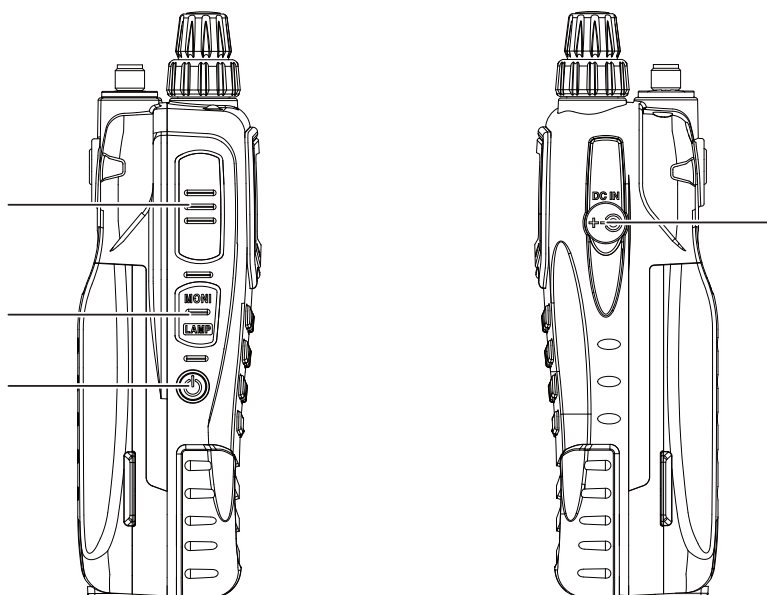
4. 各部の名称と操作

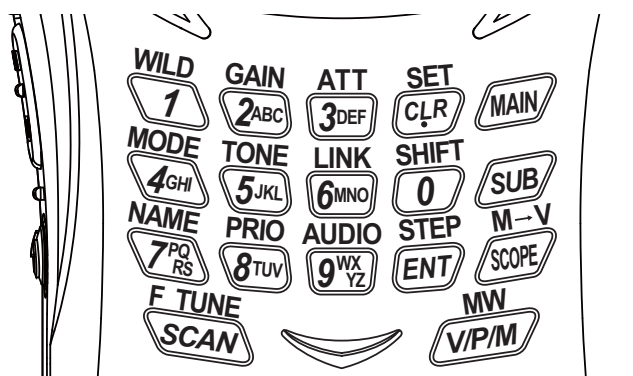
4-1 本体の名称と動作

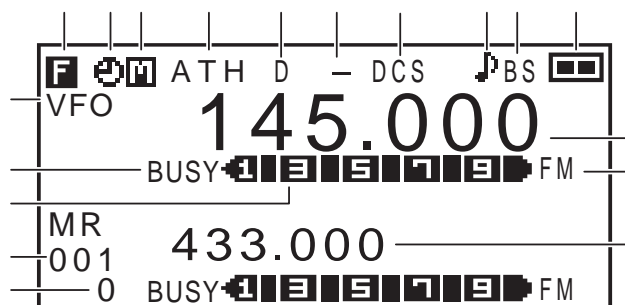
4-1-1 上面部、前面部

No.	名　称	機　能
①	メインダイヤル（上）	ダイヤルを回してメインバンドの周波数、メモリーチャンネルの変更、各種設定をおこないます。F 点灯中にダイヤルを押すと盗聴器発見機能の連結動作設定に入ります。
②	メインダイヤル（下）	ダイヤルを回してメインバンドの音量の変更、各種設定をおこないます。
③	サブダイヤル（上）	ダイヤルを回してサブバンドの周波数、メモリーチャンネルの変更、各種設定をおこないます。F 点灯中にダイヤルを押すと盗聴器発見機能の感度設定に入ります。
④	サブダイヤル（下）	ダイヤルを回してサブバンドの音量の変更、各種設定をおこないます。
⑤	ディスプレイ	本機の状態を表示します。詳細はディスプレイの表示をご参照ください。
⑥	キーボード	周波数のダイレクト入力や、各種設定に使用します。

No.	名　称	機　能
⑦	アンテナコネクター（SMA）	付属のアンテナをしっかり取り付けます。別売りのアンテナを使用するときは、動作周波数範囲内に調整されたアンテナをお選びください。
⑧	イヤホン端子	外部イヤホンを接続します。
⑨	メインRXランプ	メイン側のスケルチが開くと緑色に点灯します。
⑩	サブRXランプ	サブ側のスケルチが開くと緑色に点灯します。
⑪	スピーカー	薄型スピーカーが内蔵されています。

4

4-1-2 側面部

No.	名　称	機　能
⑫	FUNCキー	このキーと組み合わせることで様々な機能を使用でき、押しながら回すと周波数が1MHｚごとに移動します。また、長く（約1秒）押すとキーロックの設定ができます。
⑬	MONI キー(LAMPキー)	押すとスケルチが開き受信音が聞こえます。
⑭	POWERキー	長く（約1秒）押すと電源のON ／ OFF ができます。
⑮	DCジャック	外部電源接続端子です。AC アダプターやオプションのシガーライターケーブルを接続し、車中で使用できます。安定化電源を使用するときは、DC6.0Vで1A以上のものを使用してください。

4-1-3 キー操作

名　称	機　能	FUNCキーを押した後	キーを長く(約1秒)押す	キーを押しながらダイヤル操作
1	1 を入力	ワイルドキー	クイックメモリーの登録および解除(メモリーモード時)	—
2	2 を入力	受信感度調整		
3	3 を入力	アッテネーター設定		
4	4 を入力	電波型式切り替え		
5	5 を入力	トーンスケルチ／DCS ／空線無線キャンセラー設定		
6	6 を入力	バンクリンク設定		
7	7 を入力	メモリーネーム		
8	8 を入力	プライオリティ機能		
9	9 を入力	受信音質調整機能		
0	0 を入力(rev)	周波数シフト機能	—	
.	小数点を入力(CLR)	セットモード呼び出し		
ENT	入力の決定	チャンネルステップ		
MAIN	バンド／バンク切り替え	メモリーチャンネルの編集	メインバンドデュアル/モノバンド切替	バンド/バンク切替
SUB	バンド／バンク切り替え	—	サブバンドデュアル/モノバンド切替	
SCOPE	チャンネルスコープ機能	M→V機能	—	—
V/P/M	運用モード切り替え	メモリーチャンネルの登録／消去		
SCAN	スキャンキー	F　チューン機能		スキャンモードの選択

4-2 ディスプレイの表示

No.	名　称	機　能
①	F / /	[FUNC]キーを押したときと、キーロック動作時(☞P63)に点灯します。
②		オートパワーオフ機能動作時(☞P81)に点灯します。
③	M / S	操作するバンドを示します。(☞P28)
④	ATL / ATH	アッテネーター機能動作時(☞P48、P49)に点灯します。
⑤	D	検波信号出力機能動作時(☞P76)に点灯します。
⑥	− / +	周波数のシフト方向を表示します。(☞P55、P56)
⑦	TSQ / SQ / DCS /	トーンスケルチ／DCS／空線信号キャンセラー機能動作時(☞P50 ～ P53)に点灯します。
⑧	♪	ベル機能設定時(☞P93)に表示します。
⑨	BS	バッテリーセーブ機能動作時(☞P82、P83)に点灯します。
⑩	/	バッテリー／電池の残量を表示します。(☞P82)
⑪	145.000	メインバンドの周波数を表示します。
⑫	FM	電波型式(FM,ワイドFM,AM,USB,LSB,CW)を表示します。(☞P49、P50)
⑬	433.000	サブバンドの周波数を表示します。
⑭	0	メモリーバンク番号を表示します。(☞P34～…)
⑮	001	メモリーチャンネル番号を表示します。(☞P34 ～…)
⑯	1 3 5 7 9	受信レベルを表示します。
⑰	BUSY / MUTE	スケルチが開く／ミュート機能動作時(☞P26、P27、P86、P87、)に点灯します。
⑱	VFO	運用モードの状態を表示します。(☞P29 ～ P33)

5. 基本操作

5-1 電源を入れる

1 ⏻［POWER］キーを長く（約1秒）押すと電源が入ります。
電源を切るときも同じ操作をします。

5-2 周波数を調整する

調整するバンドの選択方法は（☞P28）を参照してください。

●メインバンドの周波数を調整する
メインダイヤル（上）を回します。

●サブバンドの周波数を調整する
サブダイヤル（上）を回します。
周波数は時計回りで高く、反時計回りで低くなります。

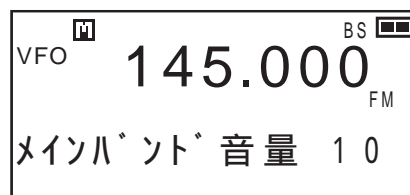
5-3 音量を調整する

音量調整範囲は0 ～ 30までの31段階です。
初期値は10です。
［MONI］キーを押している間､「ザー」と音が出ます。その音を目安に調整できます。

●メインバンドの音量を調整する
メインダイヤル（下）を回します。

●サブバンドの音量を調整する
サブダイヤル（下）を回します。
音量は時計回りで大きく、反時計回りで小さくなります。

M BS
VFO 145.000 FM
ﾒｲﾝﾊﾞﾝﾄﾞ 音量 10

注意

・イヤホンを使用するときは音量にご注意ください。小さいレベルで実際に音量を確かめながら大きくしてください。

参考

音が出ないときは
・スケルチが閉じているときや、ミュート機能が動作しているときは音量を大きくしても受信音は聞こえません。
詳細は､次の「スケルチを調整する」（☞P26）と「ミュート機能」（☞P27）を参照してください。

5-4 スケルチを調整する

●スケルチとは

一定レベル以上の信号を受信したときだけ、スピーカーから音声を出す機能です。受信信号がないときにスピーカーから聞こえる耳障りな「ザー」というノイズを聞こえなくするもので信号の待ち受けがしやすくなります。スケルチのレベルを上げると強い信号は受信できますが、弱い信号は受信できなくなります。

信号を受信して音を出すことを「スケルチが開く」と呼び、逆の場合を「スケルチが閉じる」と呼びます。どの程度の強さの信号を受信したときにスケルチが開くかは、スケルチの設定レベルで決まります。このレベルは受信場所や受信周波数などの条件によって若干変化するので調整できるようになっています。

スケルチレベルの調整範囲は0 ～ 9までの10段階です。

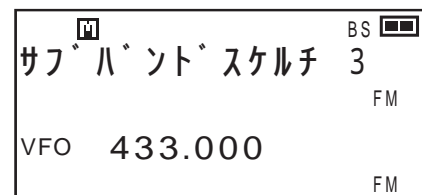
5-4-1 操作方法

●メインバンドのスケルチを調整する

メインダイヤルを1回押して、メインダイヤルを回します。

M BS
VFO 145.000
FM
ﾒｲﾝﾊﾞﾝﾄﾞｽｹﾙﾁ 3
FM

●サブバンドのスケルチを調整する

サブダイヤルを1回押して、サブダイヤルを回します。

スケルチレベルは時計回りで高く、反時計回りで低くなります。

・スケルチを常に開いた状態にしたいときはスケルチレベルを0にします。
・スケルチが開いた状態では時間指定以外のスキャンが働きません。スキャンを動作させるときはノイズ音が聞こえなくなるまでスケルチレベルを調整してください。

5-5 モニター機能

スケルチを強制的に開く機能です。受信信号が弱いときや音が途切れるときに、設定されているスケルチレベルに関わらず一時的にスケルチを開きます。この機能は「MONIキー設定」(☞P87)をモニター機能として設定した場合に有効になります。初期値はモニター機能です。

モニター機能にはPUSHとHOLDの2種類があります。いずれも[MONI]キーを押すことでディスプレイにBUSYが点灯し、スケルチが開きます。

- PUSHとHOLDの切り替え方法はセットモードの「MONIキー動作の設定」(☞P87)を参照してください。
- PUSHの設定では[MONI]キーを押している間だけスケルチが開きます。[MONI]キーをはなすと再び設定されたスケルチレベルに戻ります。
- HOLDの設定では一度[MONI]キーを押すとスケルチが開いたままの状態を保ちます。再度[MONI]キーを押すとモニター機能は解除され、設定されたスケルチレベルに戻ります。

参考

- モニター機能を使用するとトーンスケルチやDCS・空線信号キャンセラーも一時的に解除されすべての信号を受信します。
- 「受信できない、故障かな？」と思った時にこの機能を使えば正しく受信できるかチェックできます。

5-6 ミュート機能

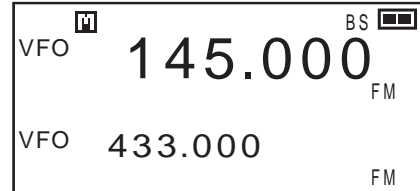
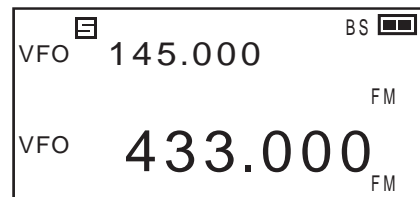
消音機能です。信号を受信しても音声を出しません。この機能は「MONIキー設定」(☞P87)をミュート機能として設定した場合に有効になります。ボリュームを操作せずワンタッチで一時的に消音したい時に便利です。
ミュート機能にもPUSHとHOLDの2種類があります。いずれも[MONI]キーを押すことでディスプレイのMUTEが点灯し、ミュート機能が動作します。

参考

- モニター機能とミュート機能はいずれか一方しか選択できません。

5-7 操作するバンドを選ぶ

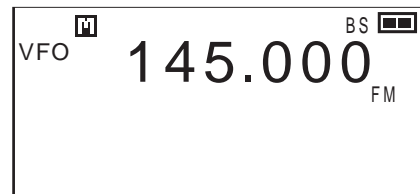
メインバンドまたはサブバンドから操作するバンドを選択します。
それぞれのバンドが受信できる範囲は（☞P33）を参照してください。

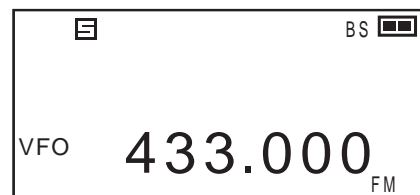
1 MAIN キーまたは SUB キーを押して操作するバンドを選択します。
デュアルバンド表示の場合、選択したバンドの周波数が大きな文字で表示されます。モノバンド表示の場合、選択したバンドのみが表示されます。

2 続けて MAIN キーまたは SUB キーを押すとバンド移動ができます。

参考

- MAIN キーを押したままダイヤル（上）を回すと、すばやくバンド移動できます。
- Mはメインバンドが操作バンドであることを示し、Sはサブバンドが操作バンドであることを示します。

5-7-1 モノバンドで運用する

●メインバンドをモノバンドで運用する

1 MAIN キーを長く（約1秒）押します。
メインバンドがモノバンドで表示されます。デュアルバンドに戻すときは、もう一度同じ操作を繰り返します。

●サブバンドをモノバンドで運用する

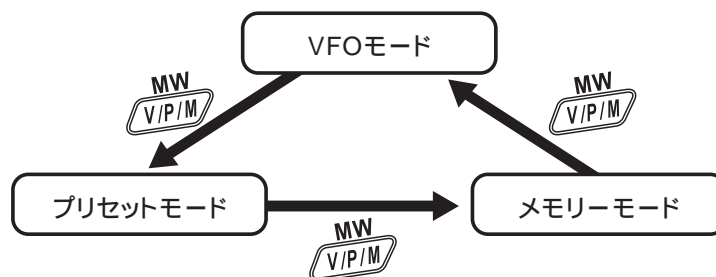
1 SUB キーを長く（約1秒）押します。
サブバンドがモノバンドで表示されます。デュアルバンドに戻すときは、もう一度同じ操作を繰り返します。

6. 運用モード

DJ-X11にはVFOモード、プリセットモード、メモリーモードの3つの運用モードがあります。

VFOモード	可変周波数発振器（Variable Frequency Oscillator）の略で、ダイヤルを回して周波数を選ぶモードです。一般のラジオに近い感覚で使えます。
プリセットモード	メインバンドには、AMラジオ、FMラジオ、TV1～62チャンネルの音声周波数があらかじめ設定されています。
メモリーモード	あらかじめ登録しておいた周波数を呼び出して運用するモードです。メモリーの登録をおこなうときは「メモリーモード」（☞P34）を参照してください。携帯電話のアドレス帳の様な機能です。

注意
- TV音声チャンネルはアナログ地上波のみ受信できます。地上波デジタルのTV音声は受信できません。
- サブバンドではプリセットモードはお使いになれません。

- 運用モードの切り替え

キーを押すごとに、図に示す順にモードが切り替わります。

参考
- プリセットモードを運用モードから外すことができます。
- 詳しくは「プリセットモード設定」（☞P75）を参照してください。

6-1 VFOモードでの運用

工場出荷時から最初に電源を入れたときに表示されるモードです。ダイヤルを回して受信周波数を選択することができます。

●バンドの切り替え

MAIN または SUB キーを押すとバンドの選択ができます。

6-2 チャンネルステップ周波数の設定

チャンネルステップとは総務省によって無線通信やラジオ、テレビ放送などに割り当てられた周波数と周波数の間隔のことです。本機は標準的なステップがプログラムされていますが、必要に応じて変更できます。
設定方法は「チャンネルステップの変更」(☞P57)を参照してください。

6-3 1MHz UP/DOWN操作

●メインバンドの周波数を大きく変更する

VFOモードでメインバンドを選んで[FUNC]キーを押しながらメインダイヤル(上)を回すと1MHz単位で増減します。

●サブバンドの周波数を大きく変更する

VFOモードでサブバンドを選んで[FUNC]キーを押しながらサブダイヤル(上)を回すと1MHz単位で増減します。

参考

・1MHz UP/DOWN操作時は、各バンドの範囲に関係なく増減します。
・[FUNC]キーを押したまま一度もダイヤルを回さずに、約1秒経過するとキーロックが動作します。
・チャンネルステップの関係上、1MHｚ単位で増減から外れる場合があります。

6-4 周波数を直接入力するときの操作

キーボードを操作して、周波数を直接入力できます。

例1： 145.000MHzと入力するとき
WILD 1 MODE 4GHI TONE 5JKL と入力して STEP ENT キー

例2： 0.702MHzと入力するとき
SET CLR NAME 7PQRS SHIFT 0 GAIN 2ABC と入力して STEP ENT キー

例3： 1270.680MHzと入力するとき
WILD 1 GAIN 2ABC NAME 7PQRS SHIFT 0 LINK 6MNO PRIO 8TUV と入力して STEP ENT キー

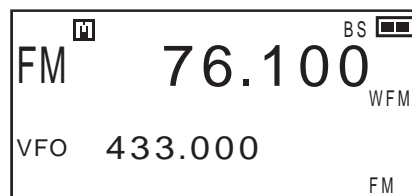
キーを押し間違えたときは、[FUNC]キーを押すと初めから入力をやり直すことができます。

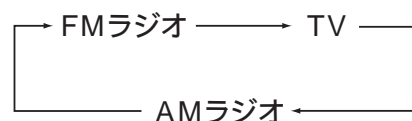
参考

- 入力中に鳴るビープ音は消す事ができます。(☞P92)
- サブバンドに入力できる周波数には制限があります。(☞P33)

6-5 プリセットモードでの運用

1 VFOモードから MW V/P/M キーを1回押すと、ディスプレイに受信モードが表示されプリセットモードになります。

FM 76.100 WFM BS
VFO 433.000 FM

2 MAIN キーで聴きたいバンドを選択します。
MAIN キーを押すごとに右のように切り替わります。

FMラジオ → TV → AMラジオ → (FMラジオへ戻る)

3 メインダイヤルを回して周波数(TVの場合はチャンネル)を選択します。

参考

- プリセットモードはサブバンドではお使いになれません。

6-6 受信するには

注意

- 通信は放送ではありません。必要な時に、最小限の設備で通話をおこなうことが殆どで、頻繁に電波が出ている通信は非常に少ないものです。ラジオ放送のように簡単に通信が受信できるとは限りません。
- 信号を受信していないときに聞こえるノイズ（バックノイズ、ホワイトノイズなどと呼ばれる物）は、電波型式や空中状態、周波数などによって聞こえ方や音の大きさ、音質が変わりますが、異常ではありません。
- 使用する電源（ACアダプターや電池等）、場所や条件（蛍光灯やテレビなど電気機器の有無、木造と鉄筋、お住まいの地域、立ち止まっているか歩いているか…）、空中状態など様々な要因で受信できる電波の強さや音質は影響を受けますが、異常ではありません。
- 付属のホイップアンテナは、主に屋外でV／UHF帯を受信するために設計されています。建物の中や、長波・中波・短波・1000MHz以上のUHFバンドで効率よく受信するには、それらの周波数の受信に対応する市販の外部アンテナを設置してください。
- 送信タワーや送信所が集中する山の近くなど強電界地域では、例えば飛行機の通信にラジオ放送の音声が重なって聞こえるようなことがありますが、異常ではありません。
  後述するアッテネーターやRFゲイン機能を使えばこれらの混信や妨害を低減できます。
- DJ-X11は非常に広い範囲の電波を受信する反面、特定の周波数帯専用に作られたラジオや無線機と比べると、その特定の範囲は専用の製品に感度や音質、音量などが劣ることがあります。これは回路設計が全く異なる製品であるためで、異常ではありません。
- サブバンドではプリセットモードはお使いになれません。
- メインバンドとサブバンドで特定の周波数を組み合わせた時、片方又は両方の受信ができなくなったり、混信したり、不安定になる事がありますが、2バンドを同時に受信させる上で起こる現象で避ける事ができません。

以上をご理解いただいた上で、引き続き本書をお読みください。尚、電波を受信しながらでないと動作の意味が分かりにくい機能があるため、操作の練習はAMやFM放送を実際に受信しながらおこなうことをお勧めします。

6

1 運用するモードで周波数を合わせます。希望周波数で信号を受信すると、ディスプレイに BUSY と受信レベルが表示され、受信音声が聞こえます。またこのとき、緑色のRXランプが点灯します。

●受信できる周波数範囲は次のとおりです。
メインバンドの受信周波数
0.05 ～ 1299.99995MHz

サブバンドの受信周波数
144MHz帯：118 ～ 170.995MHz
430MHz帯：336 ～ 469.995MHz

参考

・実用対象外となり感度が著しく劣りますがサブバンドの受信周波数範囲を拡張することが出来ます。

1 [FUNC]キーを長く（約1秒）押しキーロックをONにします。（☞P63）

2 と入力します。

以上の操作でサブバンドの225.000 ～ 335.995MHｚが受信できるようになります。

注意

・サブバンド側の225 ～ 336MHｚ帯は、特に周波数が低いほど弊社が実用と認めるスペックから外れており、受信感度やフィルター特性が悪いためにメインバンドで受信できる信号が受信できない、受信時に不要な電波を拾うなど、お使いになる環境によって不都合が頻繁に出ることがあります。強い電波や良い電波環境では受信ができることがあるため敢えて受信帯域を広げておりますが、あくまで弊社の定格の保証範囲外であり、回路設計上の理由から改善や修正もできませんのであらかじめご了承ください。

注意

・これ以降、説明に沿って操作を続けている間に誤って設定するなどして操作ができなくなったり説明書と違う画面がでてきたりするかもしれません。そんな時はリセットをおこなうと、設定が初期値に戻ります。（☞P101）を参照してください。
一通り説明書を読んで、全体の動作と操作を把握したあとで、細かいセットモード設定をすると無駄がありません。

7. メモリーモード

メモリーモードとは、あらかじめよく使う周波数や設定を登録して、呼び出して使うモードです。
周波数を使いやすいようにジャンル分けして登録する場所を「バンク」と呼び、登録された周波数を「チャンネル」と呼びます。
携帯電話のアドレス帳で「あ行」「か行」…に相当するのが「バンク」。Aさん、Bさん…に相当するのが「メモリーチャンネル」です。

7-1 メモリーの種類と使いかた

DJ-X11には次の6種類のメモリーバンクがあります。

通常メモリー用バンク	メモリーモードで呼び出す通常のチャンネルです。合計1200chの周波数を登録できます。よく使う周波数を登録しておくと、簡単に呼び出すことができます。
プログラムスキャン用バンク	決められた周波数範囲の中で信号を探すプログラムスキャン機能に使用します。50組の周波数範囲（上限と下限）を登録できます。
デュアル用バンク	メインバンド・サブバンド両方のチャンネルを同時に呼び出します。デュアルバンドで100組を登録できます。
プライオリティ用バンク	プライオリティ機能（優先受信）に使用します。100chの周波数を登録できます。
サーチパスメモリー用バンク	スキャン時に停止してほしくない周波数を登録しておくと、VFOスキャン時とプログラムスキャン時にその周波数をパスします。100chの周波数を登録できます。常に出ているノイズ信号や放送などを登録すると便利です。
盗聴器発見機能用バンク	盗聴器でよく使われている周波数を登録してあります。メモリーの登録や消去はできません。メモリースキップのみ設定できます。

注意

・サーチパスメモリー用バンクは、同じ周波数を重複して登録することはできません。登録しようとするとエラー音が鳴ります。
・サーチパスメモリーにも出荷時に本機自体が常に出しているノイズ周波数をあらかじめ登録してあります。

7-2 メモリーチャンネルの登録

DJ-X11でのメモリー登録方法です。

参考

・DJ-X11には出荷時、あらかじめポピュラーな周波数が既に登録されています。
別冊の周波数帳に「空バンク」と記載されているバンク番号を選んで登録してください。まず、このページを一通り読んでから(☞P37)の登録例に従って実際に操作すると分かりやすくなります。

1 VFOモードで登録したい周波数、トーンスケルチなどを設定しておきます。

メモリーチャンネルには、次の内容を登録することができます。

・周波数
・トーン周波数
・DCSコード
・空線信号周波数
・電波型式(受信モード)
・トーンスケルチ/逆トーンスケルチ/ DCS /空線信号キャンセラー
・メモリーネーム
・スキップ設定

2 [FUNC]キーを押します。

3 次のページの表を参考にして、ダイヤルを回して登録するバンクとメモリーチャンネルを選択します。

メインバンドで登録するときは、メインダイヤルでバンクとメモリーチャンネルを選択します。
サブバンドで登録するときは、サブダイヤルでバンクとメモリーチャンネルを選択します。
すでに登録されているメモリーチャンネルを選択すると、ディスプレイに MR が表示されます。

・バンクの種類を変更するときは、ダイヤル(下)、メモリーチャンネルを変更するときはダイヤル(上)を回します。

7

・バンク

バンクとメモリーの関係は次のとおりです。

数字表記	通常メモリー用バンク （メモリーデータ変更などの理由で、出荷時に変更になる場合があります。）
PRG	プログラムスキャン用バンク
DUAL	デュアル用バンク　メインバンド・サブバンドをペアにして１つのメモリーに登録します。
PRIO	プライオリティ用バンク
PASS	サーチパスメモリー用バンク
BUG	盗聴器発見機能用バンク（編集できません）

用途に合わせて登録するバンクを選びます。

・メモリーチャンネル

バンクの種類によって登録できるメモリーチャンネルは次のとおりです。

数字表記	000 ～ …
PRG	0A ～ 49B
DUAL	000 ～ 099
PRIO	000 ～ 099
PASS	000 ～ 099

用途に合わせて登録するバンクを選びます。

4 MW V/P/M キーを押して登録します。

登録後はもとの運用モードに戻ります。

参考

・初期設定ではデータの登録されたメモリーチャンネルへの上書きはできません。

・メモリーチャンネルの削除や編集をおこなうときは､「ライトプロテクト（メモリー保護）機能」（☞P91）の設定を無効または一時解除にしてからおこなってください。

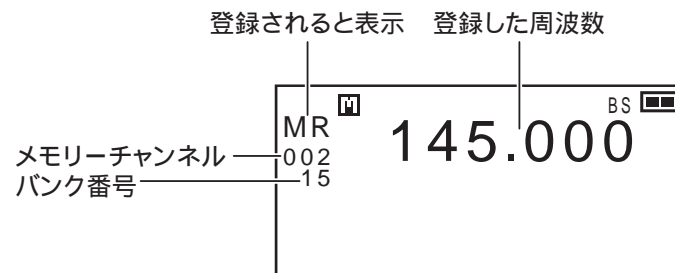
・弊社ウェブサイト（http://www.alinco.co.jp/）より無償でダウンロードできるソフトウェアと別売りのPC接続ケーブル（ERW-7/ERW-8）を使用するとこれらのメモリーバンクを、1200ch以内の任意のメモリーチャンネル数×最高50バンクまで自由に区切ることができるようになります。この操作を本機単体のボタン操作だけでおこなうことはできません。

注意

・2バンド表示のときのみ「デュアルバンク」が選択できます。
・プログラムスキャンチャンネル用バンクは○○Aと○○Bの2つの周波数を登録します。

例）01Aに145.020MHzを登録、01Bに146.100MHzを登録してプログラムスキャンをおこなったときは、01Aの145.020MHzと01Bの146.100MHzの範囲内でスキャンをおこないます。

例：メインバンドから145.000MHzをバンク15番の002チャンネルに登録する場合。
①VFOモードでメインバンド側を操作して145.000MHzに合わせます。
②[FUNC]キーを押します。
③メインダイヤル（下）を回してバンクを「15」に合わせます。
④メインダイヤル（上）を回してメモリーチャンネルを「002」に合わせます。
⑤MW V/P/M キーを押すと登録できます。

●メモリー登録例の図

参考

・メモリーの追加増設はできません。
・登録したメモリーチャンネルは、周波数の代わりにアルファベット、記号、数字、ひらがな、カタカナ、漢字、絵文字を表示することができます。詳細は「メモリーネーム機能」（☞P41）を参照してください。
・メモリーチャンネルの呼び出しはダイヤルの操作とキーボード入力のどちらでも可能です。

7-3 メモリーチャンネルの呼び出し

1. MW V/P/M キーを押してメモリーモードにします。
2. MAIN または SUB キーを押して呼び出したいメモリーバンクを選択します。
3. ダイヤルを回してメモリーチャンネルを選択します。

注意
- デュアル用バンクのデータを呼び出しているときは、メインバンド／サブバンドの切り替えはできません。
- メインバンドで登録したメモリーチャンネルで、サブバンドの範囲外の周波数は、サブバンドでは表示できません。
  サブバンドの周波数範囲は「受信するには」の(☞P33)を参照してください。
- メモリーチャンネルの登録が有効でない場合お使いになれません。

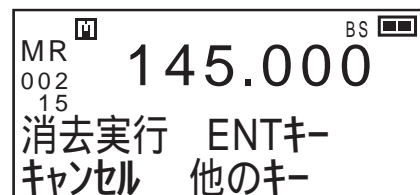
7

例：メインバンドでバンク15の002チャンネルに登録した
　145.000MHzを呼び出すとき
　①メインバンドを操作バンドに設定し、MW V/P/M キーを押してメモリーモードにします。
　②MAIN キーを押してバンク「15」に合わせます。
　③メインダイヤル（上）を回してチャンネルを「002」に合わせます。
　メモリーに登録されているメモリーチャンネルが表示されます。

7-4 メモリーチャンネルの消去

1. 「ライトプロテクト（メモリー保護）機能」（☞P91）の設定を「無効」または「一時解除」にします。
2. MW V/P/M キーを押して、メモリーモードにします。
3. 消去したいメモリーチャンネルを選択します。
4. [FUNC]キーを押してディプレイに F を点灯させます。
5. MW V/P/M キーを押すと、右のように確認のメッセージが表示されます。
6. STEP ENT キーを押すとメモリーされたチャンネルが消去されます。それ以外のキーを押すとキャンセルします。

```
M                BS
MR  145.000
002
 15
消去実行→ENTキー
キャンセル→他のキー
```

注意

・一度消去したデータの復元はできません。間違って必要なデータを消去しないようご注意ください。
・大切なデータを誤って消去しないよう、データの消去をおこなった後は､「ライトプロテクト（メモリー保護）機能」（☞P91）の設定を有効に戻してください。ライトプロテクトの設定を「一時解除」にして再度電源を入れると、自動的に「有効」に戻ります。

7-5 メモリーチャンネルの編集

登録したバンクのメモリーチャンネルを、別のバンクのメモリーチャンネルに移動できます。

1. [MW V/P/M] キーを押してメモリーモードにします。
2. 移動させたいメモリーチャンネルに合わせます。
3. [FUNC]キーを押します。
4. [MAIN] キーを押します。
5. ダイヤルを回して移動先のバンクとメモリーチャンネルを選択します。
   すでに登録されているメモリーチャンネルを選択すると、ディスプレイに MR が表示されます。
6. [MW V/P/M] キーを押します。
   [FUNC]キーを押すとキャンセルされます。

参考

・メモリーチャンネルの上書き登録をおこなうときは、あらかじめ「ライトプロテクト（メモリー保護）機能」（☞P91）の設定を「無効」または「一時解除」にしてください。

7-6 クイックメモリー

メモリーモードの中でもよく使うメモリーチャンネルをすばやく呼び出す機能です。クイックメモリーは WILD 1 ～ AUDIO 9 キーに登録できます。

7-6-1 クイックメモリーの登録

1 MW V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

2 クイックメモリーに登録するメモリーチャンネルを呼び出します。

3 キーボードの WILD 1 ～ AUDIO 9 キーのいずれかを長く（約1秒）押します。

ディスプレイに「登録しました」と表示されます。

参考

・クイックメモリーに登録されているメモリーチャンネルを編集すると、編集内容がクイックメモリーに反映されます。
・クイックメモリーの解除は上記の 1 と 3 の操作をおこなうとディスプレイに「解除しました」と表示されます。

7-6-2 クイックメモリーの呼び出し

1 キーボードの WILD 1 ～ AUDIO 9 キーのいずれかを押します。

2 MW V/P/M キーを押します。

参考

・クイックメモリーは、どの運用モードからでも呼び出すことができます。

7-7 メモリースキップ機能

メモリースキップ機能とは、メモリースキャン中に、設定したメモリーチャンネルを受信せずに飛ばしてスキャンする機能です。放送や空線信号の出ているメモリーチャンネルは必ずそこでスキャンが止まるので、そのようなチャンネルに設定しておくと効率のよいスキャンがおこなえます。

1 MW V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

2 スキップさせたいメモリーチャンネルを選択します。

7

3 [SET/CLR] キーを押します。

ディスプレイ左の MR が SKIP に変わり、メモリースキップが設定されます。
メモリースキップを解除するには対象のメモリーチャンネルを選択して上記の操作をおこないます。
SKIP の表示が MR に変わり、メモリースキップが解除されます。

7-8 メモリーネーム機能

メモリーモードで登録したメモリーチャンネルに数字、アルファベット、ひらがな、カタカナ、漢字、記号、絵文字をあわせて8文字までの名前を付けることができます。
コールサインや放送局名などに名前を付けて登録すると、メモリーチャンネルが見やすくなります。

●メモリーネームの登録方法

1 [MW/V/P/M] キーを押してメモリーモードにします。

2 [FUNC]キーを押してディスプレイに F マークを点灯させます。

3 [NAME/7] キーを押してメモリーネームモードにします。

ディスプレイに「メモリ名の編集」と表示されます。

4 キーボードで文字を入力します。

キーボードにそれぞれの文字が割り当てられています。
詳しくは「キーボードに割り当てられている文字一覧」(☞P43～P47)を参照してください。

5 ダイヤル(下)を回すと文字入力のカーソルを移動できます。

6 文字を消すには [SET/CLR] キーで1文字ずつ消去できます。

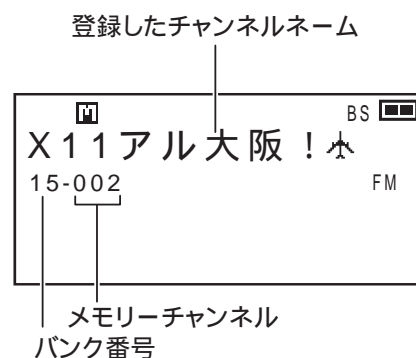
すべての文字を消すには [SET/CLR] キーを長く(約1秒)押すと消去できます。

7

●メモリーネームの入力方法

キーボードには文字が割り当てられています。(☞P43 ～ P47)
キーボードのキーを続けて押していくと文字が順送りに表示されます。
キーボードのキーを押した後、ダイヤル(上)を回すと文字が順送りに表示され、さらにダイヤルを回すと、漢字を表示します。

入力例:「X11アル大阪!✈」と入力するとき

1 AUDIO 9WXYZ キーを押してダイヤル(上)を回し「X」に合わせます。
2 WILD 1 キーを1回押してダイヤル(下)を回し文字入力のカーソルを移動します。
3 WILD 1 キーを1回押してダイヤル(下)を回し文字入力のカーソルを移動します。
4 WILD 1 キーを押してダイヤル(上)を回し「ア」に合わせます。
5 AUDIO 9WXYZ キーを押してダイヤル(上)を回し「ル」に合わせます。
6 MODE 4GHI キーを押してダイヤル(上)を回し「大」に合わせます。
7 ATT 3DEF キーを押してダイヤル(上)を回し「阪」に合わせます。
8 MAIN キーを押してダイヤルを回し「!」に合わせます。
9 MW V/P/M キーを押してダイヤルを回し「✈」に合わせます。

10 [FUNC]キーを押すと設定が終了します。

参考

・メモリーネームを登録していても、周波数表示で運用できます。「メモリーネーム表示設定」(☞P92)を参照してください。
・漢字を多用するネーム入力には、ユーティリティソフトのご利用をおすすめします。
・絵文字はユーティリティソフトにより自作することができます。

●キーボードに割り当てられている文字一覧

キー	文字
WILD 1	1　あいうえお　ぁぃぅぇぉ　アイウエオ　ァィゥェォ
GAIN 2ABC	2　ＡＢＣ　ａｂｃ　かきくけこ　がぎぐげご　カキクケコ ガギグゲゴ
ATT 3DEF	3　ＤＥＦ　ｄｅｆ　さしすせそ　ざじずぜぞ　サシスセソ ザジズゼゾ
MODE 4GHI	4　ＧＨＩ　ｇｈｉ　たちつてと　っ　だぢづでど タチツテト　ッ　ダヂヅデド
TONE 5JKL	5　ＪＫＬ　ｊｋｌ　なにぬねの　ナニヌネノ
LINK 6MNO	6　ＭＮＯ　ｍｎｏ　はひふへほ　ばびぶべぼ　ぱぴぷぺぽ ハヒフヘホ　バビブベボ　パピプペポ
NAME 7PQRS	7　ＰＱＲＳ　ｐｑｒｓ　まみむめも　マミムメモ
PRIO 8TUV	8　ＴＵＶ　ｔｕｖ　やゆよ　ゃゅょ　ヤユヨ　ャュョ
AUDIO 9WXYZ	9　ＷＸＹＺ　ｗｘｙｚ　らりるれろ　ラリルレロ
SHIFT 0	0　わゎゐゑをん　ワヮヰヱヲン　ヴヵヶ
MAIN	、。，．・：；？！゛゜´｀¨＾￣＿ヽヾゝ ゞ〃仝々〆〇ー―‐／＼～‖｜…‥‘’“” （）〔〕［］｛｝〈〉《》「」『』【】＋－ ±×÷＝≠＜＞≦≧∞∴♂♀°′″℃￥＄￠ ￡％＃＆＊＠§☆★○●◎◇◆□■△▲▽▼ ※〒→←↑↓〓∈∋⊆⊇⊂⊃∪∩∧∨￢⇒⇔ ∀∃∠⊥⌒∂∇≡　≪≫√∽∝∵∫∬Å‰♯ ♭♪†‡¶◯
MW V/P/M	

●キーボードに割り当てられている文字一覧（漢字）

	亜唖娃阿哀愛挨姶逢葵茜穐悪握渥旭葦芦鯵梓圧斡扱宛姐虻飴絢 綾鮎或粟袷安庵按暗案闇鞍杏以伊位依偉囲夷委威尉惟意慰易椅 為畏異移維緯胃萎衣謂違遺医井亥域育郁磯一壱溢逸稲茨芋鰯允 印咽員因姻引飲淫胤蔭院陰隠韻吋右宇烏羽迂雨卯鵜窺丑碓臼渦 嘘唄欝蔚鰻姥厩浦瓜閏噂云運雲荏餌叡営嬰影映曳栄永泳洩瑛盈 穎頴英衛詠鋭液疫益駅悦謁越閲榎厭円園堰奄宴延怨掩援沿演炎 焔煙燕猿縁艶苑薗遠鉛鴛塩於汚甥凹央奥往応押旺横欧殴王翁襖 鴬鴎黄岡沖荻億屋憶臆桶牡乙俺卸恩温穏音
	下化仮何伽価佳加可嘉夏嫁家寡科暇果架歌河火珂禍禾稼箇花苛 茄荷華菓蝦課嘩貨迦過霞蚊俄峨我牙画臥芽蛾賀雅餓駕介会解回 塊壊廻快怪悔恢懐戒拐改魁晦械海灰界皆絵芥蟹開階貝凱劾外咳 害崖慨概涯碍蓋街該鎧骸浬馨蛙垣柿蛎鈎劃嚇各廓拡撹格核殻獲 確穫覚角赫較郭閣隔革学岳楽額顎掛笠樫橿梶鰍潟割喝恰括活渇 滑葛褐轄且鰹叶椛樺鞄株兜竃蒲釜鎌噛鴨栢茅萱粥刈苅瓦乾侃冠 寒刊勘勧巻喚堪姦完官寛干幹患感慣憾換敢柑桓棺款歓汗漢澗潅 環甘監看竿管簡緩缶翰肝艦莞観諌貫還鑑間閑関陥韓館舘丸含岸 巌玩癌眼岩翫贋雁頑顔願企伎危喜器基奇嬉寄岐希幾忌揮机旗既 期棋棄機帰毅気汽畿祈季稀紀徽規記貴起軌輝飢騎鬼亀偽儀妓宜 戯技擬欺犠疑祇義蟻誼議掬菊鞠吉吃喫桔橘詰砧杵黍却客脚虐逆 丘久仇休及吸宮弓急救朽求汲泣灸球究窮笈級糾給旧牛去居巨拒 拠挙渠虚許距鋸漁禦魚亨享京供侠僑兇競共凶協匡卿叫喬境峡強 彊怯恐恭挟教橋況狂狭矯胸脅興蕎郷鏡響饗驚仰凝尭暁業局曲極 玉桐粁僅勤均巾錦斤欣欽琴禁禽筋緊芹菌衿襟謹近金吟銀九倶句 区狗玖矩苦躯駆駈駒具愚虞喰空偶寓遇隅串櫛釧屑屈掘窟沓靴轡 窪熊隈粂栗繰桑鍬勲君薫訓群軍郡卦袈祁係傾刑兄啓圭珪型契形 径恵慶慧憩掲携敬景桂渓畦稽系経継繋罫茎荊蛍計詣警軽頚鶏芸 迎鯨劇戟撃激隙桁傑欠決潔穴結血訣月件倹倦健兼券剣喧圏堅嫌 建憲懸拳捲検権牽犬献研硯絹県肩見謙賢軒遣鍵険顕験鹸元原厳 幻弦減源玄現絃舷言諺限乎個古呼固姑孤己庫弧戸故枯湖狐糊袴 股胡菰虎誇跨鈷雇顧鼓五互伍午呉吾娯後御悟梧檎瑚碁語誤護醐 乞鯉交佼侯候倖光公功効勾厚口向后喉坑垢好孔孝宏工巧巷幸広 庚康弘恒慌抗拘控攻昂晃更杭校梗構江洪浩港溝甲皇硬稿糠紅紘 絞綱耕考肯肱腔膏航荒行衡講貢購郊酵鉱砿鋼閤降項香高鴻剛劫 号合壕拷濠豪轟麹克刻告国穀酷鵠黒獄漉腰甑忽惚骨狛込此頃今 困坤墾婚恨懇昏昆根梱混痕紺艮魂

7

ATT 3DEF	些佐叉唆嵯左差査沙瑳砂詐鎖裟坐座挫債催再最哉塞妻宰彩才採 栽歳済災采犀砕砦祭斎細菜裁載際剤在材罪財冴坂阪堺榊肴咲崎 埼碕鷺作削咋搾昨朔柵窄策索錯桜鮭笹匙冊刷察拶撮擦札殺薩雑 皐鯖捌錆鮫皿晒三傘参山惨撒散桟燦珊産算纂蚕讃賛酸餐斬暫残 仕仔伺使刺司史嗣四士始姉姿子屍市師志思指支孜斯施旨枝止死 氏獅祉私糸紙紫肢脂至視詞詩試誌諮資賜雌飼歯事似侍児字寺慈 持時次滋治爾璽痔磁示而耳自蒔辞汐鹿式識鴫竺軸宍雫七叱執失 嫉室悉湿漆疾質実蔀篠偲柴芝屡蕊縞舎写射捨赦斜煮社紗者謝車 遮蛇邪借勺尺杓灼爵酌釈錫若寂弱惹主取守手朱殊狩珠種腫趣酒 首儒受呪寿授樹綬需囚収周宗就州修愁拾洲秀秋終繍習臭舟蒐衆 襲讐蹴輯週酋酬集醜什住充十従戎柔汁渋獣縦重銃叔夙宿淑祝縮 粛塾熟出術述俊峻春瞬竣舜駿准循旬楯殉淳準潤盾純巡遵醇順処 初所暑曙渚庶緒署書薯藷諸助叙女序徐恕鋤除傷償勝匠升召哨商 唱嘗奨妾娼宵将小少尚庄床廠彰承抄招掌捷昇昌昭晶松梢樟樵沼 消渉湘焼焦照症省硝礁祥称章笑粧紹肖菖蒋蕉衝裳訟証詔詳象賞 醤鉦鍾鐘障鞘上丈丞乗冗剰城場壌嬢常情擾条杖浄状畳穣蒸譲醸 錠嘱埴飾拭植殖燭織職色触食蝕辱尻伸信侵唇娠寝審心慎振新晋 森榛浸深申疹真神秦紳臣芯薪親診身辛進針震人仁刃塵壬尋甚尽 腎訊迅陣靭笥諏須酢図厨逗吹垂帥推水炊睡粋翠衰遂酔錐錘随瑞 髄崇嵩数枢趨雛据杉椙菅頗雀裾澄摺寸世瀬畝是凄制勢姓征性成 政整星晴棲栖正清牲生盛精聖声製西誠誓請逝醒青静斉税脆隻席 惜戚斥昔析石積籍績脊責赤跡蹟碩切拙接摂折設窃節説雪絶舌蝉 仙先千占宣専尖川戦扇撰栓栴泉浅洗染潜煎煽旋穿箭線繊羨腺舛 船薦詮賎践選遷銭銑閃鮮前善漸然全禅繕膳糎噌塑岨措曾曽楚狙 疏疎礎祖租粗素組蘇訴阻遡鼠僧創双叢倉喪壮奏爽宋層匝惣想捜 掃挿掻操早曹巣槍槽漕燥争痩相窓糟総綜聡草荘葬蒼藻装走送遭 鎗霜騒像増憎臓蔵贈造促側則即息捉束測足速俗属賊族続卒袖其 揃存孫尊損村遜

<table>
<tr><td></td><td>他多太汰詑唾堕妥惰打柁舵楕陀駄騨体堆対耐岱帯待怠態戴替泰
滞胎腿苔袋貸退逮隊黛鯛代台大第醍題鷹滝瀧卓啄宅托択拓沢濯
琢託鐸濁諾茸凧蛸只叩但達辰奪脱巽竪辿棚谷狸鱈樽誰丹単嘆坦
担探旦歎淡湛炭短端箪綻耽胆蛋誕鍛団壇弾断暖檀段男談値知地
弛恥智池痴稚置致蜘遅馳築畜竹筑蓄逐秩窒茶嫡着中仲宙忠抽昼
柱注虫衷註酎鋳駐樗瀦猪苧著貯丁兆凋喋寵帖帳庁弔張彫徴懲挑
暢朝潮牒町眺聴脹腸蝶調諜超跳銚長頂鳥勅捗直朕沈珍賃鎮陳津
墜椎槌追鎚痛通塚栂掴槻佃漬柘辻蔦綴鍔椿潰坪壷嬬紬爪吊釣鶴
亭低停偵剃貞呈堤定帝底庭廷弟悌抵挺提梯汀碇禎程締艇訂諦蹄
逓邸鄭釘鼎泥摘擢敵滴的笛適鏑溺哲徹撤轍迭鉄典填天展店添纏
甜貼転顛点伝殿澱田電兎吐堵塗妬屠徒斗杜渡登菟賭途都鍍砥砺
努度土奴怒倒党冬凍刀唐塔塘套宕島嶋悼投搭東桃梼棟盗淘湯涛
灯燈当痘祷等答筒糖統到董蕩藤討謄豆踏逃透鐙陶頭騰闘働動同
堂導憧撞洞瞳童胴萄道銅峠鴇匿得徳涜特督禿篤毒独読栃橡凸突
椴届鳶苫寅酉瀞噸屯惇敦沌豚遁頓呑曇鈍</td></tr>
<tr><td></td><td>奈那内乍凪薙謎灘捺鍋楢馴縄畷南楠軟難汝二尼弐迩匂賑肉虹廿
日乳入如尿韮任妊忍認濡禰祢寧葱猫熱年念捻撚燃粘乃廼之埜嚢
悩濃納能脳膿農覗蚤</td></tr>
<tr><td></td><td>巴把播覇杷波派琶破婆罵芭馬俳廃拝排敗杯盃牌背肺輩配倍培媒
梅楳煤狽買売賠陪這蝿秤矧萩伯剥博拍柏泊白箔粕舶薄迫曝漠爆
縛莫駁麦函箱硲箸肇筈櫨幡肌畑畠八鉢溌発醗髪伐罰抜筏閥鳩噺
塙蛤隼伴判半反叛帆搬斑板氾汎版犯班畔繁般藩販範釆煩頒飯挽
晩番盤磐蕃蛮匪卑否妃庇彼悲扉批披斐比泌疲皮碑秘緋罷肥被誹
費避非飛樋簸備尾微枇毘琵眉美鼻柊稗匹疋髭彦膝菱肘弼必畢筆
逼桧姫媛紐百謬俵彪標氷漂瓢票表評豹廟描病秒苗錨鋲蒜蛭鰭品
彬斌浜瀕貧賓頻敏瓶不付埠夫婦富冨布府怖扶敷斧普浮父符腐膚
芙譜負賦赴阜附侮撫武舞葡蕪部封楓風葺蕗伏副復幅服福腹複覆
淵弗払沸仏物鮒分吻噴墳憤扮焚奮粉糞紛雰文聞丙併兵塀幣平弊
柄並蔽閉陛米頁僻壁癖碧別瞥蔑箆偏変片篇編辺返遍便勉娩弁鞭
保舗鋪圃捕歩甫補輔穂募墓慕戊暮母簿菩倣俸包呆報奉宝峰峯崩
庖抱捧放方朋法泡烹砲縫胞芳萌蓬蜂褒訪豊邦鋒飽鳳鵬乏亡傍剖
坊妨帽忘忙房暴望某棒冒紡肪膨謀貌貿鉾防吠頬北僕卜墨撲朴牧
睦穆釦勃没殆堀幌奔本翻凡盆</td></tr>
</table>

キー	漢字
NAME 7 PQRS	摩磨魔麻埋妹昧枚毎哩槙幕膜枕鮪柾鱒桝亦俣又抹末沫迄侭繭麿万慢満漫蔓味未魅巳箕岬密蜜湊蓑稔脈妙粍民眠務夢無牟矛霧鵡椋婿娘冥名命明盟迷銘鳴姪牝滅免棉綿緬面麺摸模茂妄孟毛猛盲網耗蒙儲木黙目杢勿餅尤戻籾貰問悶紋門匁
PRIO 8 TUV	也冶夜爺耶野弥矢厄役約薬訳躍靖柳薮鑓愉愈油癒諭輸唯佑優勇友宥幽悠憂揖有柚湧涌猶猷由祐裕誘遊邑郵雄融夕予余与誉輿預傭幼妖容庸揚揺擁曜楊様洋溶熔用窯羊耀葉蓉要謡踊遥陽養慾抑欲沃浴翌翼淀
AUDIO 9 WXYZ	理璃痢裏裡里離陸律率立葎掠略劉流溜琉留硫粒隆竜龍侶慮旅虜了亮僚両凌寮料梁涼猟療瞭稜糧良諒遼量陵領力緑倫厘林淋燐琳臨輪隣鱗麟瑠塁涙累類令伶例冷励嶺怜玲礼苓鈴隷零霊麗齢暦歴列劣烈裂廉恋憐漣煉簾練聯蓮連錬呂魯櫓炉賂路露労婁廊弄朗楼榔浪漏牢狼篭老聾蝋郎六麓禄肋録論
SHIFT 0	倭和話歪賄脇惑枠鷲亙亘鰐詫藁蕨椀湾碗腕

＜漢字について＞

本機はJIS第一水準の漢字を全て含んでおります。

8. キーボードに割り当てられた機能

DJ-X11では各キーの上部に印字されている機能がキーに割り当てられています。割り当てられた機能を設定するには、［FUNC］キーを押してディスプレイに F を点灯させてから、キーを押します。

8-1 ショートカット機能

［MONI］キー、WILD 1 キーのそれぞれに、セットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。
よく使う機能を登録しておくと、すばやく設定変更できます。

1 ［FUNC］キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 ［MONI］キー、または WILD 1 キーを押して割り当てた機能を呼び出します。

3 その後の操作は割り当てたセットモードの操作に沿っておこないます。
機能の登録方法は「WILDキー割当」、「MONIキー割当」（☞P86）を参照してください。

8-2 受信感度（RF ゲイン）調整とアッテネーター機能

近接したチャンネルで強い信号を出している局の影響を受けたり、航空無線のバンドでFM放送が聞こえたりする際に、敢えて受信感度を下げることでこれらの妨害を減少させ、目的の信号を聞きやすくする機能です。RFゲインはメイン・サブ独立して調整できますのでメインバンドとサブバンドで異なるバンドを受信しているとき（VHF消防無線をメイン、UHF簡易業務無線をサブ、のような組み合わせ）の使用に適しており、アッテネーターは両バンドが同じように設定されますのでVHF航空無線を2波同時受信しているようなときに適しています。

8

●受信感度調整の操作

1 ［FUNC］キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 GAIN 2ABC キーを押すと「メインバンド受信感度」（メインバンド側）、もう一度 GAIN 2ABC キーを押すと「サブバンド受信感度」（サブバンド側）が表示されます。

VFO M 145.000 BS FM
ﾒｲﾝﾊﾞﾝﾄﾞ受信感度
1

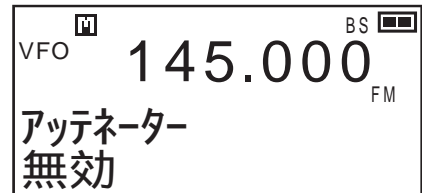
3 ダイヤル（上）を回して、「1」～「10」の10段階で調整します。
感度調整機能の受信感度は「1」高い～「10」低いとなります。

●アッテネーターの設定

1 ［FUNC］キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 ATT 3DEF キーを押すと「アッテネーター」が表示されます。

VFO M 145.000 BS FM
アッテネーター
無効

3 ダイヤル（上）を回して、「無効」、「弱」、「強」の3段階で調整します。
「弱」・「強」の場合はそれぞれ ATL・ATH が点灯します。

注意

・アッテネーターの減衰量は受信周波数により変化します。
・本機の受信感度調整には、プリアンプを入れるような「感度を上げる」機能はありません。

8-3 電波型式切り替え設定

受信したい電波型式を手動で切り替えます。

1 あらかじめ、受信したい周波数に合わせておきます。

2 ［FUNC］キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

3 MODE 4GHI キーを押すと「電波型式」が表示されます。

VFO M 145.000 BS FM
電波型式
オート

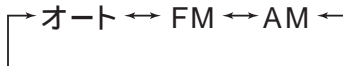
8

4 ダイヤル（上）を回して電波型式を切り替えます。

メインバンドの電波型式は図のように切り替わります。

→オート↔FM↔ワイドFM↔AM↔USB↔LSB↔CW←

サブバンドの電波型式は図のように切り替わります。

→オート↔FM↔AM←

- サブバンドで選べる電波型式はAMとFMのみです。
- 本機のSSB／CW受信は簡易的な回路を採用しているため、混信や抑圧に対する性能は通信型無線機と比べて劣りますが、異常ではありません。信号の強度によってはUSBがLSBでも復調できるような場合もあります。
- CWとSSBのフィルタは共用で、ナローモードには対応しません。
- SSBやCWが多用される短波帯以下の周波数を受信するには、広帯域受信に対応する外部アンテナの設置が特に重要になります。

8

8-4 トーンスケルチ機能／DCS機能／空線信号キャンセラー機能設定

クラブメンバーやローカル局など、特定の局を待ち受け受信する方法にはトーンスケルチ（CTCSS）機能とDCS機能があります。

注意

- 一つのバンドにトーンスケルチとDCS機能を併用することはできません。

1 ［FUNC］キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 TONE 5JKL キーを押す毎に

トーンスケルチ → 逆トーンスケルチ → DCS → 空線信号キャンセラー → 設定解除（通常モード）

の順で切り替わります。

8-4-1 トーンスケルチ機能

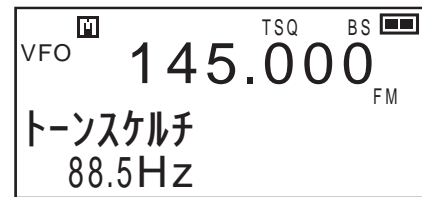
トーンスケルチ機能には二つの種類があります。

トーンスケルチ「ＴＳＱ」：デコーダー機能の設定で、選択受信がおこなえます。

逆トーンスケルチ「ＳＱ」：デコーダー機能の設定で、トーンが一致したときスケルチが閉じます。主にタクシー無線を受信するときに使います。

1 ［FUNC］キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 TONE 5JKL キーを数回押して「トーンスケルチ」または「逆トーンスケルチ」を選択します。

VFO M TSQ BS 145.000 FM
トーンスケルチ
88.5Hz

3 ダイヤル（上）を回して下記の39個の中からトーンスケルチ周波数を選択します。

（単位：Hz）

67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7	82.5	85.4
88.5	91.5	94.8	97.4	100.0	103.5	107.2	110.9
114.8	118.8	123.0	127.3	131.8	136.5	141.3	146.2
151.4	156.7	162.2	167.9	173.8	179.9	186.2	192.8
203.5	210.7	218.1	225.7	233.6	241.8	250.3	

＜トーンスケルチ周波数一覧＞

［FUNC］キーを押すと設定が終了します。

トーン周波数が一致すれば「TSQ」または「SQ」の表示が反転します。

4 トーンスケルチ機能を解除するには、［FUNC］キーを押して、ディスプレイに F を点灯させます。TONE 5JKL キーを数回押して「設定解除」を選択し、［FUNC］キーを押すとトーンスケルチ機能が解除されます。

注意

・トーンスケルチを使うときも、通常のスケルチレベルはあらかじめ適正に調整してください。通常のスケルチを開いたままにしていると、トーンスケルチ動作に時間がかかります。

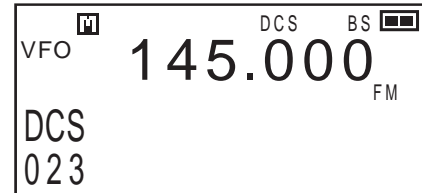
8

8-4-2 DCS機能

トーンスケルチ機能と似た原理で選択受信をおこなう機能です。
104種類のDCSコードが選択できます。

1 ［FUNC］キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 TONE 5JKL キーを数回押して「DCS」を選択します。

VFO M DCS BS 145.000 FM
DCS
023

3 ダイヤル（上）を回して下記の104種類の中からDCSコードを選択します。

023	025	026	031	032	036	043	047
051	053	054	065	071	072	073	074
114	115	116	122	125	131	132	134
143	145	152	155	156	162	165	172
174	205	212	223	225	226	243	244
245	246	251	252	255	261	263	265
266	271	274	306	311	315	325	331
332	343	346	351	356	364	365	371
411	412	413	423	431	432	445	446
452	454	455	462	464	465	466	503
506	516	523	526	532	546	565	606
612	624	627	631	632	654	662	664
703	712	723	731	732	734	743	754

＜DCSコード一覧＞

［FUNC］キーを押すと設定が終了します。
DCSコードが一致すれば「DCS」の表示が反転します。

4 DCS機能を解除するには、[FUNC]キーを押して、ディスプレイに F を点灯させます。TONE 5JKL キーを数回押して「設定解除」を選択し、[FUNC]キーを押すとDCS機能が解除されます。

・DCSを使うときも、通常のスケルチレベルはあらかじめ適正に調整してください。通常のスケルチを開いたままにしていると、DCS動作に時間がかかります。

8-4-3 空線信号キャンセラー機能

鉄道無線やMCA無線を受信するときに、音声信号がないときに聞こえる空線信号音(「ピー」や「ギャラギャラ」音)を判別してスケルチをかける機能です。

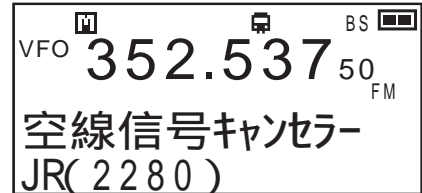
1 空線信号が出ている周波数に合わせます。

2 [FUNC]キーを押して、ディスプレイに F を点灯させます。

3 TONE 5JKL キーを数回押して「空線信号キャンセラー」を選択します。
ディスプレイに とJR、または300〜3000の数字が表示されます。

VFO 352.537 50 FM
空線信号キャンセラー
JR(2280)

4 ダイヤル(上)を回してスケルチが閉じるように調整します。

5 空線信号キャンセラー機能を解除するには、TONE 5JKL キーを数回押してディスプレイに「設定解除」と表示される項目を選択し、[FUNC]キーを押します。
空線信号キャンセラー機能が解除されます。

8-5 バンクリンク設定機能

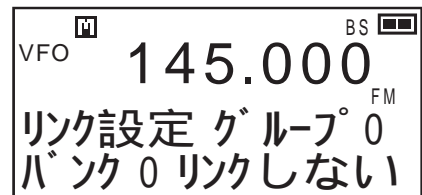
メモリースキャンのときに、スキャンをおこなうバンクを自由に組み合わせてグループ化できます。グループは10組と盗聴器発見機能専用の1組が設定でき、それぞれ SHIFT 0 〜 AUDIO 9WXYZ キーと SUB キーに対応しています。
(SUB キーを押すとグループBとなり盗聴器発見機能用バンクとリンクできます。)

●バンクリンク設定方法

1 [FUNC]キーを押して、ディスプレイに F を点灯させます。

2 LINK 6MNO キーを押します。

3 SHIFT 0 〜 AUDIO 9WXYZ または SUB キーを押して設定したいグループ番号を選択します。

VFO 145.000 FM
リンク設定 グループ 0
バンク 0 リンクしない

4 ダイヤルを回してバンク番号を選択し、STEP/ENT キーを押してリンクを「する」にするとグループが登録されます。

再度 STEP/ENT キーを押すとリンクは「しない」となり、登録が解除されます。

・設定したグループの内容を確認するときは、確認したいグループを選択してダイヤル(下)を回します。各バンクのリンクの状態が表示されます。

8-6 プライオリティ機能

2つのチャンネルを交互に待ち受けて、受信の効率をよくする機能です。VFOモードで受信中のチャンネルを5秒受信するごとに(※1)選択したプライオリティチャンネルを0.5秒受信し、信号の有無をチェックします。よく聞くチャンネルをメインチャンネルに、調べたいチャンネルをプライオリティにして使うと便利です。

メインバンド、サブバンド個別に動作させることができます。

1 [FUNC]キーを押して、ディスプレイに F を点灯させます。

2 PRIO/8TUV キーを押したままダイヤル(上)を回してプライオリティチャンネルを選択します。

3 PRIO/8TUV キーを離すとプライオリティ機能が動作します。

プライオリティチャンネルを受信したときはビープ音がなります。その信号がなくなるまで受信し続けます。(※2)

4 [FUNC]、F TUNE/SCAN キーのいずれかを押すとプライオリティ機能が停止します。

・プライオリティチャンネルにメモリーが1つも登録されていないときは、プライオリティ機能は動作しません。

・プライオリティ機能が動作しているときは、スキャンできません。

・5秒(※1)に一度、プライオリティチャンネルを受信するため、この間隔で「プツプツ」とメインチャンネルの音声が途切れて聞こえます。特に放送など、常に電波が出ている信号では起こりやすくなりますが、故障ではありません。

※1 プライオリティチャンネル側を受信しにいく間隔はセットモードの「プライオリティ待受時間設定」(☞P89)で変更できます。

※2 プライオリティチャンネル側で受信したときの停止時間はセットモードの「プライオリティ停止時間設定」(☞P90)で変更できます。

8-7 受信音質調整機能

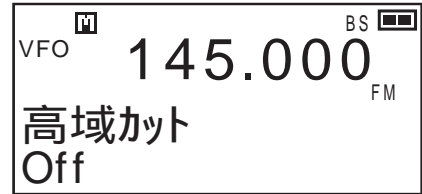
受信した音声の音質を切り替える機能です。好みに合わせて設定してください。受信モード（電波型式）によっても聞きやすさがかわることがあります。

1 [FUNC]キーを押して、ディスプレイに F を点灯させます。

2 AUDIO 9WXYZ キーを押します。「高域カット」が表示されもう一度 AUDIO 9WXYZ キーを押すと「低域カット」が表示されます。

VFO M BS
145.000 FM
高域カット
Off

3 ダイヤル（上）を回して、各音域のON/OFFを選択し音質をかえます。

4 [FUNC]キーを押して終了します。

参考

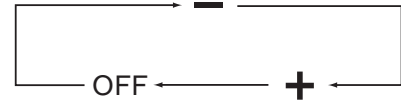
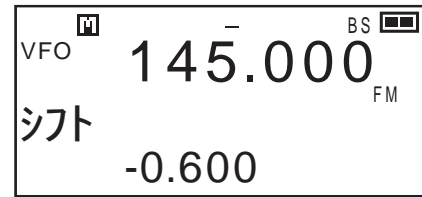
- ワイドFMには効果がありません。
- トーンスケルチを使っているときに低域をカットすると、耳の敏感な方には聞こえるトーンの「ブー」音が低減します。特に高い周波数のトーンに有効です。トーンスケルチはもちろん正常に動作します。

8-8 周波数シフト機能

現在受信している周波数に対して、ワンタッチで受信周波数をずらす機能です。例えば、レピーター（中継機）を使って通信している場合などでは、送信周波数（アップリンク周波数）と受信周波数（ダウンリンク周波数）の2つを使って通信しています。この機能を使用するとワンタッチで両方の通信が交互に受信できます。

8-8-1 設定のしかた

1 [FUNC]キーを押して、ディスプレイに F を点灯させます。

2 SHIFT 0 キーを押してシフトさせたい周波数の方向を合わせます。
キーを押すごとに表示が右のように切り替わります。

3 ダイヤルを回しシフトさせる周波数を設定します。
[FUNC]キーを押しながらダイヤルを回すと1MHz単位で周波数変更できます。

4 [FUNC]キーを押して終了します。

参考

- 通常、レピーターを介した通信はダウンリンク周波数（中継機が受信した信号を再送信する側の周波数）に周波数を合わせると受信できます。
- この機能は、タクシー無線のシステムのような、基地局側とタクシー側で異なった周波数を使用している通信を受信するときに使用します。
- 基地局側の音声が聞こえなくなったときに、ワンタッチでタクシー側の周波数に切り替えて受信することができます。但しこの場合、基地局側の電波は比較的強く受信しやすいですが、タクシー側の電波はあまり強くないために受信可能範囲にいないと音声は聞こえません。

8-8-2 使いかた

SHIFT 0 キーを押すとシフトされた周波数を受信します。
もう一度 SHIFT 0 キーを押すと元の周波数に戻ります。

注意

- シフト機能を解除するときは、[FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させ、「OFF」が表示されるまで SHIFT 0 キーを押して、再度[FUNC]キーを押してください。

8-9 チャンネルステップの変更

チャンネルステップとは総務省によって無線通信やラジオ、テレビ放送などに割り当てられた周波数と周波数の間隔を言います。
チャンネルステップの初期設定値は変更できます。
設定変更できるチャンネルステップの単位は次の通りです。

●選択できるチャンネルステップ

オート、50Hz、100Hz、1kHz、5kHz、6.25kHz、8.33kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、
20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz、150kHz、200kHz、500kHz、1MHz
受信周波数により一部選択できないチャンネルステップがあります。

参考

・SSBやCWモードでは50Hzを使います。

●メインバンドの切り替え

MAIN キーを押すと、次の14のバンドから順に選択できます。

初期値（MAIN）	周波数範囲
.150（AM）	(50 ～ 530kHz)※1
.531（AM）	(531 ～ 1620kHz)※2
2.000（AM）	(1.625 ～ 49.99995MHz)
51.000（FM）	(50.000 ～ 75.99995MHz)
76.100（WFM）	(76.000 ～ 107.99995MHz)
118.000（AM）	(108.000 ～ 141.99995MHz)
145.000（FM）	(142.000 ～ 169.99995MHz)
175.750（WFM）	(170.000 ～ 221.99995MHz)
322.000（AM）	(222.000 ～ 335.99995MHz)
380.000（FM）	(336.000 ～ 429.99995MHz)
433.000（FM）	(430.000 ～ 469.99995MHz)
475.750（WFM）	(470.000 ～ 769.99995MHz)
806.000（WFM）	(770.000 ～ 959.99995MHz)
1295.000（FM）	(960.000 ～ 1299.99995MHz)

※1:選択できるチャンネルステップは50Hz・100Hz・1kHzです。
※2:選択できるチャンネルステップは1kHz・9kHzです。

●サブバンドの切り替え

SUB キーを押すと、次の4つのバンドから順に選択できます。

初期値(SUB)	周波数範囲
118.000 (AM)	(118.000 ～ 141.995MHz)
145.000 (FM)	(142.000 ～ 170.995MHz)
352.000 (FM)	(336.000 ～ 429.995MHz)
433.000 (FM)	(430.000 ～ 469.995MHz)

・初期設定は「オート」です。通常は「オート」設定を変更する必要はありませんが、自動で合わない周波数を受信する際に変更してください。

・サブバンドでは、50Hz・100Hz-1kHzのチャンネルステップは選択できません。

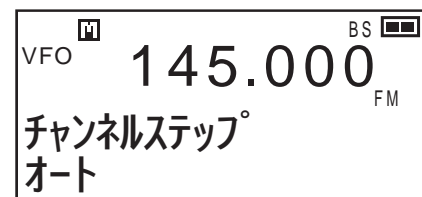
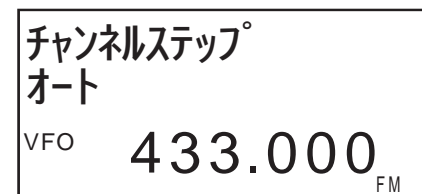
1 チャンネルステップを変更したいバンドにあわせます。

2 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

3 STEP ENT キーを押すと「チャンネルステップ」が表示されます。

ディスプレイに右のように表示されます。

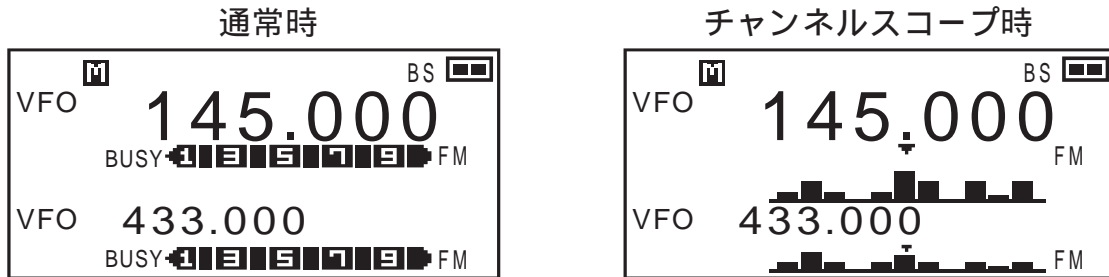
メインバンドの場合

サブバンドの場合

チャンネルステップ
オート
VFO 433.000 FM

4 ダイヤル(上)を回して「オート」と各チャンネルステップを選択します。

8

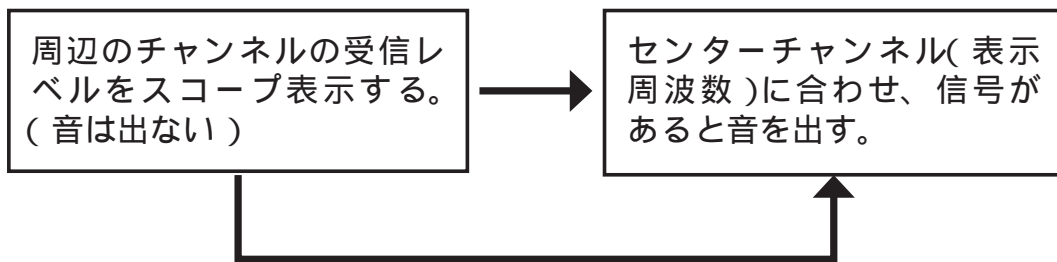
8-10 チャンネルスコープ機能

チャンネルスコープとは、表示中の周波数を受信しながら、その周辺のチャンネルの受信状況をレベル表示する機能です。VFO／メモリーモードで使用でき、複数のチャンネル使用状況が一目でわかります。

通常時

表示周波数の受信信号レベルを横方向に表示します。

チャンネルスコープ時

センターチャンネル(表示周波数)(▼点灯)を中心に、11波の受信信号レベルを縦方向に表示します。

●チャンネルスコープのしくみ

- センターチャンネルに信号がなければ、11波を自動的にスキャンしてスコープ表示を更新し続けます。
- センターチャンネルに信号があるときは、スキャンタイプ設定(☞P88)にしたがって受信します。(スコープ表示は更新しません)
- タイマースキャン設定時は、センターチャンネル受信中も周辺チャンネルの表示を設定にあわせたタイミングで更新するため、センターチャンネルの受信音が一瞬途切れます。ビジースキャン設定時は、センターチャンネルが受信中であれば周辺チャンネルは表示が変化しません。
- 時間指定スキャン設定時は、センターチャンネルの信号の有無に関わらず一定時間ごとにスコープ表示を更新します。
  更新中は受信音が一瞬途切れます。

8

● トーンスケルチ、DCS設定時のチャンネルスコープ動作について
（通常モード時のセンターチャンネルの受信）
トーンスケルチまたはDCSが設定されているときは、信号があるとセンターチャンネルで停止し、トーンが一致すると受信音が聞こえます。

●チャンネルスコープの種類
（１）開始時のモードにより、VFOチャンネルスコープとメモリーチャンネルスコープがあります。
（２）デュアルバンドとモノバンド
サブバンド側でモノバンド運用したときは、スキャンの設定に関係なく、受信音は途切れません。

8-10-1 VFOチャンネルスコープ

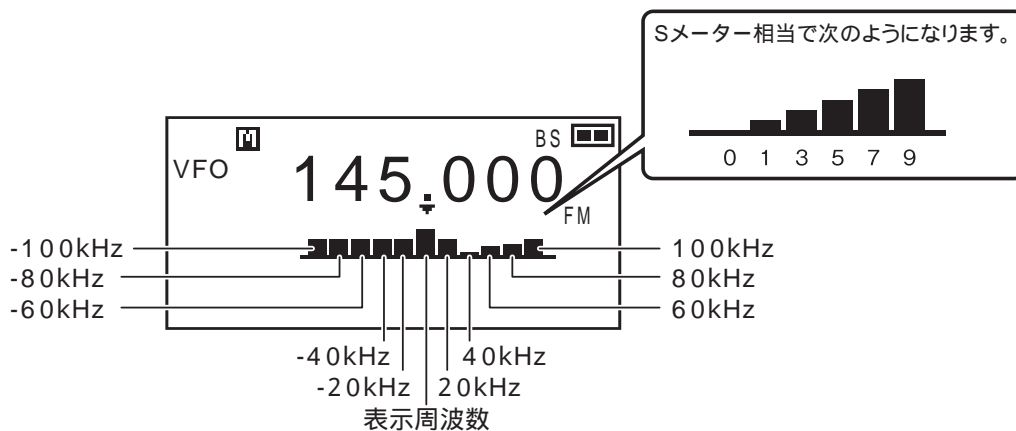
センターチャンネルを中心にして、チャンネルステップごとに受信信号レベルを表示します。

8

1 VFOモードでスコープを表示するバンドに合わせます。

2 M→V SCOPE キーを押します。
VFOチャンネルスコープが表示されます。

3 ダイヤルを回してセンターチャンネルを選択します。
センターチャンネルが1チャンネルずつステップごとに上下します。それにしたがって、スコープ表示が左右に1つずつずれます。

●VFOスコープ表示のみかた
（例）メインバンド チャンネルステップが20kHzのとき

8-10-2 メモリーチャンネルスコープ

表示メモリーの周波数を中心にして、隣り合った登録メモリーの周波数の受信レベルを表示します。

注意

- 空きメモリーは、チャンネルスコープの対象外です。
- スコープ対象メモリーが1チャンネルもないときは、チャンネルスコープがスタートしません。

1 メモリーモードでスコープを表示させたいバンクを選択します。

2 M→V SCOPE キーを押します。

メモリーチャンネルスコープが始まります。表示メモリー（センターチャンネル）を受信しながら、周辺の登録メモリーの受信レベルをスコープ表示します。

3 ダイヤルを回してセンターチャンネルを選択します。

センターチャンネルが上下して、次のスコープ対象のメモリーに移ります。それにしたがってスコープの表示が左右に1つずつずれます。

8

参考

- [FUNC]キーを押して F を点灯させ、M→V SCOPE キーを押すと、センターチャンネルの受信動作を次のように変更できます。

  通常モード：センターチャンネルで受信すると音を出し、受信時間は「スキャンタイプ設定（☞P88）」に従います。チャンネルスコープ開始時は、毎回通常モードになります。

  表示モード：センターチャンネルも他のチャンネルと同じようにレベル表示のみおこない、信号を受信しても音は出しません。

- MAIN、SUB キーにより、操作バンドが切り替わります。チャンネルスコープを動作させたまま操作バンドが移動するので、デュアル運用時、両バンドで同時チャンネルスコープがおこなえます。

8-11 メモリーチャンネルを**VFO**モードにコピーする

メモリーチャンネルの周波数をVFOモードにコピーします。メモリーチャンネルから少し周波数をずらして受信したいときや、メモリーチャンネルを編集するときに使うと便利です。

1 メモリーモードで、VFOモードにコピーしたいメモリーチャンネルを選択します。

2 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

3 M→V SCOPE キーを押すとメモリーチャンネルの周波数をVFOモードにコピーします。
コピー後は、VFOモードに切り替わります。

8-12 F チューン機能

強力な電波を検知して、その周波数へすばやく同調することで、未知の電波を受信できます。F チューン機能には、F COUNT(周波数カウンター)とF TUNE(強信号優先チューン)の2つのモードがあります。

・F COUNTは、受信信号の中に非常に強いものがあれば、その周波数をリアルタイムで表示します。
・F TUNEは、受信信号の中で非常に強いものをまず優先して感知、その周波数の近くまで行ってから通常のスキャンをして、より素早く、正確に目的の信号を捉える機能です。

●F チューン機能の設定

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2

キーを数回押して「F COUNT」または「F TUNE」を選択します。

3 「F TUNE」時、周波数を発見すると自動でVFOモードへ移行し音声を聞けるようになります。

F COUNT

4 [FUNC]キーを押して終了します。

> **注意**
> ・F COUNTおよびF TUNE機能の動作周波数は50MHｚ～1299.99995MHｚです。
> ・目的の電波より強い電波またはノイズがある場合など、周波数条件により動作しないことがあります。
> ・F COUNTの分解能は5kHzです。
> ・周波数により感度が異なる場合があります。

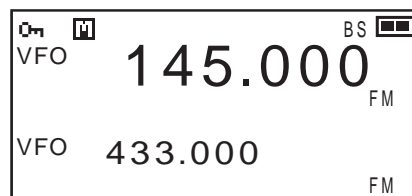
9. 便利な機能

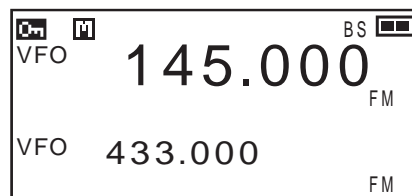
9-1 キーロック機能

使用時や携帯時に誤ってキーやダイヤルが操作されることを防ぐ機能です。手軽にロックするクイック・ロックと、解除しにくいノーマル・ロックの2つの方法があります。

9-1-1 キーロックの方法

●クイック・ロック

[FUNC]キーを長く（約1秒）押して、キーロックのON/OFFを切り替えます。
キーロック時は、ディスプレイに マークが点灯します。

●ノーマル・ロック

SUB キーを押しながら左ダイヤルを3回押して、キーロックのON/OFFを切り替えます。
キーロック時は、ディスプレイに マークが点灯します。

注意

- キーロックの解除はキーロックをかけたときと同じ方法を繰り返してください。同じ方法でないと解除できません。
- SUB キーを押したまま一度もダイヤルを押さずに約1秒経過すると、モノバンドはデュアルバンドに、デュアルバンドはモノバンドに切り替わります。

9-1-2 キーロック時にできる操作

音量調整　　　：下側のダイヤルを回すと調整ができます。
スケルチの調整：ダイヤルを押して回すと調整ができます。
キーロック中に操作できるキーの設定は「キーロックモード設定」（☞P83）を参照してください。

9-2 スキャン機能

自動的に周波数を切り替えて受信をおこない、出ている信号を探し出す機能です。
スキャン機能には次の種類があります。

VFO スキャン	VFO モードで、バンド内の全周波数をあらかじめ設定したチャンネルステップでスキャンします。
プリセットスキャン	プリセットモードのバンド内の周波数をスキャンします。
メモリースキャン	メモリーモードで、メモリーに登録した周波数だけをスキャンします。
プログラムスキャン	スキャンする範囲の上限と下限を設定してその範囲内をスキャンします。

●スキャン中の共通操作

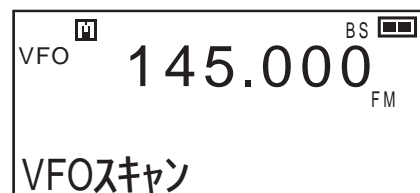
- ［FUNC］、F TUNE SCAN キーのいずれかを押すとスキャンが止まります。
- スキャン中にダイヤルを回すとスキャン方向を変更できます。
- スキャン中にモニター機能を動作させると、その間はスキャンが一時停止します。モニター機能を解除するとスキャンを再開します。
- スキャンの開始方向は、最後にスキャンした方向によって決まります。（但し、プログラムスキャンの場合は、登録した○○Aから○○Bへ向かってスキャンを開始します。）
- スキャンを再開する条件を設定することができます。設定方法は「スキャンタイプ設定」（☞P88）を参照してください。

9-3 VFOスキャン

1 MW V/P/M キーを押してVFOモードにします。

2 F TUNE SCAN キーを押したままダイヤル（上）を回して「VFOスキャン」を選択します。

3 F TUNE SCAN キーを離すとスキャンを開始します。
スキャン中は周波数表示のドットが点滅します。

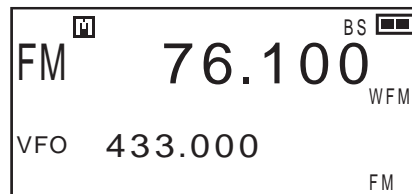
4 ［FUNC］、F TUNE SCAN キーのいずれかを押すとスキャンを停止します。

9-4 プリセットスキャン

1 MW V/P/M キーを押してプリセットモードにします。

2 MAIN キーを押してバンドを選択します。

3 F TUNE SCAN キーを押すとスキャンを開始します。

スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。

4 [FUNC]、F TUNE SCAN キーのいずれかを押すとスキャンを停止します。

9-5 メモリースキャン

メモリーモード時に、特定のバンクまたは、すべてのバンクをスキャンします。
メモリースキャンには次の3種類があります。

単バンクスキャン	選んだ1つのバンクのみをスキャンします。
グループスキャン	前もって組み合わせたバンクをスキャンします。
全バンクスキャン	通常メモリ用バンクの全バンクがスキャンの対象になります。

参考

・通常メモリーチャンネル用以外のバンクはスキャンできません。
・ユティリティソフトウェアの操作でバンクの拡張をおこなうと、バンク0～49までの間で全バンクスキャンが可能になります。
・グループスキャンはバンクリンク設定(☞P53)を登録しなければお使いになれません。

1 MW V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

2 F TUNE SCAN キーを押したままダイヤル(上)を回してスキャンの種類を選択します。

MR 002 1　145.000　BS
単バンクスキャン

メモリースキャンの種類は次のとおりです。
・単バンクスキャン
・グループスキャン
・全バンクスキャン
単バンクスキャンを選択すると現在のバンクをスキャンします。

3 F TUNE SCAN キーを離すとスキャンを開始します。
スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。

4 ［FUNC］、F TUNE SCAN キーのいずれかを押すとスキャンを停止します。

9-6 プログラムスキャン

スキャンする範囲の上限と下限を設定してその範囲内をスキャンします。設定した上限の周波数と下限の周波数をプログラムチャンネルと呼びます。本機は50組のプログラムチャンネルを登録できます。「メモリーチャンネルの登録(☞P35)」をお読みください。あらかじめプログラムスキャン用バンクにデータを登録しておかないと、次の操作はできません。

1 MW V/P/M キーを押してVFOモードにします。

2 F TUNE SCAN キーを押したままダイヤル(上)を回して「プログラムスキャン」を選択します。

VFO 145.000 BS FM
プログラムスキャン 0

3 F TUNE SCAN キーを離すとスキャンを開始します。
スキャン中は周波数表示のドットが点滅します。

4 ［FUNC］、F TUNE SCAN キーのいずれかを押すとスキャンを停止します。

9-7 トーンスキャン

受信電波に含まれるトーン周波数を自動的に判別する機能です。

1 VFOモードでトーン周波数を調べたい周波数に合わせます。

2 F TUNE SCAN キーを押したままダイヤル(上)を回して「トーンスキャン」を選択します。

3 F TUNE SCAN キーを離すとスキャンを開始します。
スキャンを開始し、ディスプレイにトーン周波数が順に表示されます。トーンが発見されるとビープ音が鳴ってディスプレイに TSQ とトーン周波数が表示され、スキャンを停止します。トーン周波数が受信電波に含まれないときは、いつまでもスキャンし続けます。

4 [FUNC]、F TUNE SCAN キーのいずれかを押すとスキャンを停止します。

9-8 DCSスキャン

受信電波に含まれるDCSコードを自動的に判別する機能です。

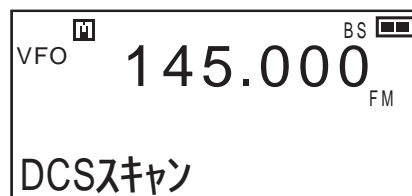
1 VFOモードでDCSコードを調べたい周波数に合わせます。

2 F TUNE SCAN キーを押したままダイヤル（上）を回して「DCSスキャン」を選択します。

VFO M 145.000 FM BS
DCSスキャン

3 F TUNE SCAN キーを離すとスキャンを開始します。
スキャンを開始し、ディスプレイにDCSコードが順に表示されます。DCSコードが発見されるとビープ音が鳴ってディスプレイに DCS とDCSコードが表示されスキャンを停止します。DCSコードが受信電波に含まれないときは、いつまでもスキャンし続けます。

4 [FUNC]、F TUNE SCAN キーのいずれかを押すとスキャンを停止します。

9

9-9 スイープスキャン

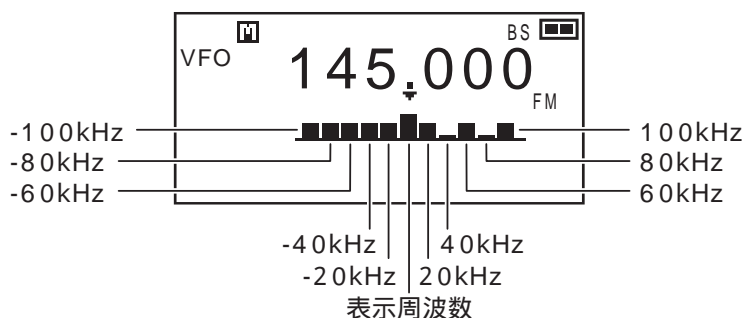
スイープスキャンとは、チャンネルスコープ動作中にスキャンをしながら受信レベルを表示していく機能です。次のチャンネルに移っても、前のチャンネルの受信レベルが表示に残ります。スキャンと同様に、バンド、プログラム、メモリーの3種類のスイープスキャンがあります。

1 チャンネルスコープ動作中に F TUNE/SCAN キーを押します。

スイープスキャンが始まります。チャンネルステップ単位でスイープスキャンします。スイープスキャン中は、デシマルポイントが点滅し、表示周波数で信号受信すると、スキャン再開条件にしたがって受信します。

2 [FUNC]、F TUNE/SCAN キーを押すとチャンネルスコープに戻ります。

●スイープスキャンレベルのみかた

（例）UP方向スイープスキャン（チャンネルステップが20kHzのとき）

スイープスキャン中は周波数を1ステップずつ右から新しくレベルを表示し、左へ順に移動していきます。DOWN時は逆に表示していきます。スキャン中の▼は移動しません。

9

9-10 盗聴器発見機能設定

盗聴器で使われていそうな周波数を自動的にスキャンして、盗聴器を探索する機能です。盗聴器があると判断すると、表示と警告音で知らせます。
本機には「サイレント」と「サウンド」の2つのモードがあります。
初期値はサイレントとサウンド、2つのモードを組み合わせた設定です。「盗聴器発見機能時の連結動作設定」(☞P71)を参照してください。
また、ユーザーでメモリー登録したバンクを盗聴器発見機能用バンクと組み合わせて盗聴器の探索ができます。

参考

・サイレントモードでは盗聴器発見の探索感度を設定できます。「盗聴器発見機能の感度設定」(☞P72)を参照してください。
・盗聴器発見機能では、盗聴器発見機能用バンクと組み合わせたバンク内のメモリーチャンネルを探索します。「バンクリンク設定機能」(☞P53)を参照してください。

注意

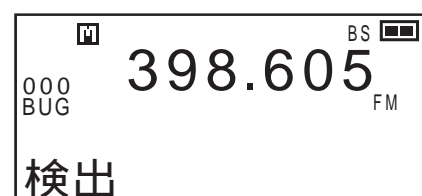
・音声ガイドを動作させている場合、盗聴波でない信号を受信しても使用環境や、電波状況によって誤動作し、「盗聴器を発見しました」と発声することがあります。あくまで補助的な機能ですので目安としてお使いください。
・これらの機能は簡易的なもので、セキュリティの安全を保障するものではありません。盗聴器を発見できなかったことに対する保障は致しかねますので、ご了承ください。
・弊社では、盗聴器発見や発見された盗聴器の処理などのサービスは一切おこなっておりません。
・本機能の動作や操作について以外の盗聴に関する一般的なご相談は、弊社カスタマーサービスでは受け付けておりません。

9-10-1 サイレントモードでの操作方法

信号を受信するとその受信音をスピーカーから出し、盗聴器であれば起こる「ハウリング」という現象の有無によって精度の高い探索をするモードです。周囲の音がスピーカーから聞こえてくれば盗聴器が仕掛けられている可能性があります。(音が大きくなるので注意してください。)
単独でサイレントモードを動作させるときは盗聴器発見機能時の連結動作設定の「モード連結」を「OFF」にしてください。

1 右ダイヤルを長く(約1秒)押すとサイレントモードが動作します。

自動的にスキャンを開始します。スキャン中のビープ音はありません。盗聴器があると判断すると警告音をならし、ディスプレイに右のように表示します。

M	BS
000 BUG	398.605 FM
検出	

2 左ダイヤル(下)を回して音量を調整できるようにしておきます。
本機でハウリングの音(キーン音)が発生するように音量を調整し、盗聴器を探します。このときスピーカーの開口部はふさがないでください。

3 本機をゆっくり動かします。
盗聴器に近づくとハウリングの音が発生しやすくなり、盗聴器から離れるとハウリングの音が発生しにくくなります キーを押すと、機能が一時停止します。
もう一度押すと再開します。

4 盗聴器発見機能を解除するときは、もう一度 **1** と同じ操作を繰り返します。

> **! 注意**
> ・このモードで動作させるときは、イヤホンを使用しないでください。
> ・ノイズなどの影響で誤動作して、スキャンが止まることがありますが盗聴器であれば、ハウリング音に混じって必ず周囲の音が聞こえるので判断できます。

9-10-2 サウンドモードでの操作方法

本機から音を出し、盗聴器にその音を発信させ、その信号を本機が受信するまでの時間差を測り、盗聴器の探索と盗聴器までのおおまかな距離を判定するモードです。盗聴器があると判断すると盗聴器までの距離を音と表示によって教えてくれるのが特徴です。探索中はピーと大きな音をたてます。
単独でサウンドモードを動作させるときは盗聴器発見機能時の連結動作設定の「モード連結」を「OFF」にしてください。

1 左ダイヤルを長く(約1秒)押すとサウンドモードが動作します。
自動的にスキャンを開始します。
スキャン中は連続したピー音が出ます。
指定した範囲のスキャンをおこなって一定時間が経過しても見つからない場合は「停止」と表示して、探索を終了します。

2 本機をゆっくり動かしながら盗聴器がありそうな場所を探します。
盗聴器があると判断すると「ピッ・ピッ・ピッ」と音が出ます。
本機が盗聴器に近づくと、アイコンの間隔が狭まって音の間隔が短くなり、盗聴器から離れていくと、アイコンの間隔が広がって音の間隔が長くなります。F TUNE SCAN キーを押すと、機能が一時停止します。もう一度押すと再開します。

3 盗聴器発見機能を解除するときは、もう一度 **1** と同じ操作を繰り返します。

- このモードを動作させるときは、イヤホンを使用しないでください。
- 盗聴器発見機能の有効距離は約1 ～ 5mです。
- 盗聴器発見機能は周囲の音や盗聴器の電波の強さ、マイク感度などに大きく影響されます。周囲環境により（音が反響しやすいところなど）誤動作または使用できないことがあります。
- 盗聴器探索中、本機を急に動かすと、ドップラー効果により誤動作します。
- スピーカーの向きと盗聴器の位置関係で正常に動作しないことがあります。
- サウンドモード時に鳴るトーンに近い音が乗った電波を受信している場合、誤動作することがあります。
- 盗聴器によく使用されている周波数の他に探索したい周波数を盗聴器発見用バンクと組み合わせて盗聴器の探索をおこなった場合はスキャン時間が長くなることがあります。（☞P53）

9-10-3 盗聴器発見機能の連結動作設定

盗聴器発見機能でサイレントとサウンド、2つのモードを組み合わせて動作させることができます。
この設定は、盗聴器発見モード動作中に行うことはできません。設定を「ON」にした後で発見機能を操作すると、あらかじめ設定した発見モードで探索を開始して、疑わしい信号を発見すると別のモードに自動的に移行します。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 左ダイヤルを押すと「モード連結」が表示されます。

3 ダイヤルを回して「OFF」、「ON」、「ON 継続」を選択します。
初期値は「ON」で、連結動作をする設定です。
「ON」の場合、サイレントモード操作時は信号感知後サウンドモードへ、サウンドモード操作時はサイレントモードへそれぞれ自動的に移行します。疑わしい信号を感知しなければモード移行せず探索を終了します。
「ON 継続」の場合、信号感知するまで探索を継続します。

9-10-4 盗聴器発見機能の感度設定

サイレントモード時の盗聴器発見機能の検出感度を設定します。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

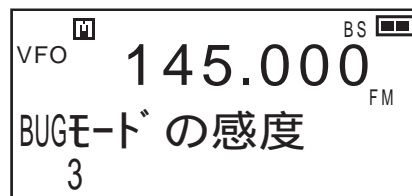
2 右ダイヤルを押すと「BUGモードの感度」が表示されます。

ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 BS FM
BUGモード の感度
3

3 ダイヤルを回して「1」〜「5」を選択します。

初期値は3です。

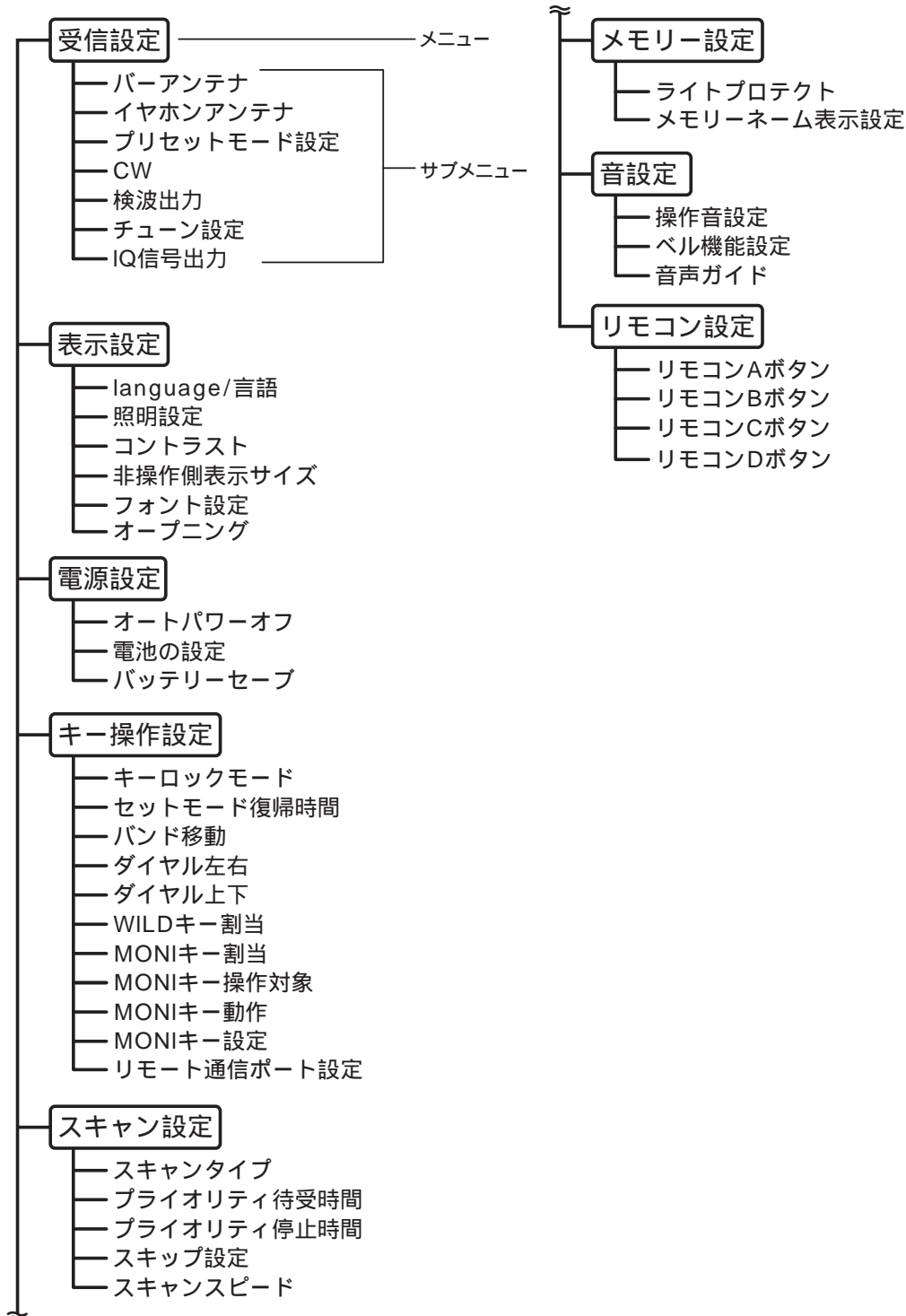
盗聴器発見機能の感度は「1」低い⟷「5」高いの順で選択できます。

注意

・感度を高くすると、誤動作を起こしやすくなります。低くすると誤動作は減りますが、盗聴器の近くでないと反応が鈍くなります。

9

10. セットモード

各種機能を用途にあわせて変更することで本機をより使いやすくすることができます。
セットモードでは、次の項目をカスタマイズできます。
項目の目次を「メニュー」、その下にある設定項目を「サブメニュー」と呼びます。

10

●セットモードの設定方法

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。
2 SET CLR キーを押すとセットモードになります。
3 ダイヤル(上)を回して、セットモードのメニューを選択します。
4 SET CLR キーを押すと、サブメニューが表示されます。
5 ダイヤル(上)を回してサブメニューを選択し、ダイヤル(下)を回して設定を変更します。
6 [MONI]キーを押すとセットモードのメニュー選択画面に戻ります。
7 [FUNC]キーを押すと確定してセットモードを終了できます。

10-1 受信設定

この項目では快適に受信をするための設定をおこないます。

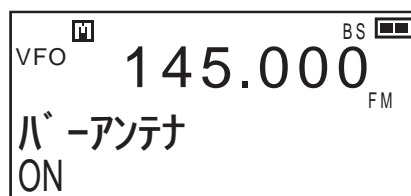
1 セットモードのメニューから≪受信設定≫を選択します。
2 SET CLR キーを押すと、受信設定サブメニューに入ります。

M BS
VFO 145.000 FM
《受信設定》

10-1-1 バーアンテナ設定

AMラジオ帯を受信するときに内蔵しているバーアンテナと付属のホイップアンテナを切り替えます。

1 ダイヤル(上)を回して「バーアンテナ」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

M BS
VFO 145.000 FM
バ゛ーアンテナ
ON

2 ダイヤル(下)を回して「ON」←→「OFF」を選択します。
AMラジオ帯の受信アンテナの初期設定は内蔵バーアンテナを使用しています。付属のホイップアンテナを使用する際はアンテナをアンテナコネクター(SMA)に接続してください。

注意

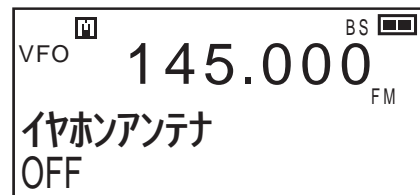
・内蔵バーアンテナは、短波放送に対応していません。付属のホイップアンテナを接続してお使いください。

10-1-2 イヤホンアンテナ設定

イヤホンアンテナと付属のホイップアンテナを切り替えます。イヤホンアンテナを選択すると、イヤホンコードがアンテナの役割を果たし、付属のホイップアンテナを外しても信号を受信することができます。

1 ダイヤル(上)を回して「イヤホンアンテナ」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO M 145.000 BS FM
イヤホンアンテナ
OFF

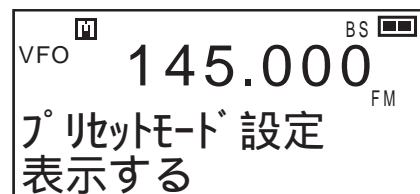
2 ダイヤル(下)を回して「ON」←→「OFF」を選択します。

参考

・イヤホンをアンテナとして利用できます。
・イヤホンアンテナは、コードの状態によって受信される信号が不安定になることがあります。
・イヤホンアンテナはカード型トランジスタラジオのイヤホンアンテナと同じで、特に同調を取ったアンテナではありません。FM放送や近くから出ている強い電波でないと正しく受信できないことがあります。
・イヤホンは市販のものでもアンテナとして受信できます。(ステレオ・モノラルのどちらでも受信できます)

10-1-3 プリセットモード設定

運用モードのプリセットモードを表示させない設定です。

1 ダイヤル(上)を回して「プリセットモード設定」を選択します。

VFO M 145.000 BS FM
プリセットモード設定
表示する

2 ダイヤル(下)を回して「表示する」←→「表示しない」を選択します。

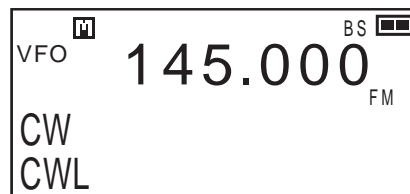
・表示しないを選択すると、MW V/P/M キーを押してもメインバンドのプリセットモードを表示しません。

10-1-4 CW設定

無変調連続波（モールス信号）を受信するときの設定です。

1 ダイヤル（上）を回して「CW」を選択します。

2 ダイヤル（下）を回して「CWL」←→「CWU」のどちらかを選択します。

聞き取りやすい方を選択してください

10-1-5 検波信号出力機能

デジタル信号のうち、例えばアマチュア無線の9600bps高速パケット通信ではFSKやGMSKと呼ばれる変調方式を用いるため、1200bpsのAFSKパケットのようにフィルターを通した後のオーディオ信号では上手く受信できません。そのようなときにここからの信号を専用の接続機器（TNCなど）やパソコンに入力すれば、そのデータ通信を受信できるようになることがあります。

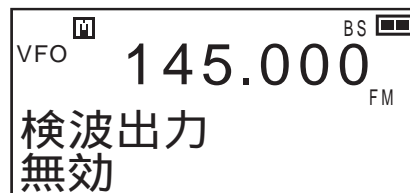
・お使いの機器やソフトウエア、パソコンとの相性、パソコンのプロパティ設定、受信環境（ノイズや抑圧の有無）など様々な条件により、目的の通信がデコードできない場合が考えられます。このため、弊社では「弊社の定格通りの信号が出ているかどうか」の点検以外、一切のサポートは致しかねますのであらかじめご了承ください。又、特定の機器やソフトウエアに関する操作方法のお尋ねや、パソコンのレベルや環境設定に関するお問い合せにもお答えはできません。

・受信したデータは3極ステレオミニプラグ（☞P98）データ信号出力端子より出力されています。

1 ダイヤル（上）を回して「検波出力」を選択します。

2 ダイヤル（下）を回して「無効」←→「有効」を選択します。

VFO BS 145.000 FM
検波出力
無効

・「有効」のときメインバンドの音声は出ません。

10-1-6 F チューン機能の動作設定

F チューン機能で感知した信号をスキャンする周波数範囲を設定できます。「3」を選ぶとスキャンをする幅が広くなるので精度の高い同調ができますが、時間が余分にかかります。「1」は時間は早い分、目的の信号へ完全にチューンしない場合があります。目的の信号の強さのような条件で精度が変わるため、可変できるようになっています。

1 ダイヤル（上）を回して「チューン設定」を選択します。

2 ダイヤル（下）を回して「1」～「3」のどれかを選択します。

10-1-7 IQ信号出力機能

DJ-X11はIQ信号をイヤホン端子から取り出すことができます。両端に3.5mmφステレオミニプラグのついた市販ケーブル（☞P98クローン機能で使うケーブルと同じ仕様）でイヤホン端子とパソコンのMIC/ラインイン入力端子を接続すれば、インターネットで公開されているソフトウエアを使ってパソコン画面上で受信を楽しむSDR（Software Defined Radio）プログラムが使えるようになります。これらのプログラムではDSP（デジタルシグナルプロセッサ）など、DJ-X11に搭載されていない機能が使えるものもあるため、ワッチの楽しさが一層広がります。

注意

・弊社では第三者が開発したソフトウエアを幾つか実験して動作を確認しておりますが、お使いのプログラム、パソコンとの相性、パソコンのプロパティ設定、受信環境（ノイズや抑圧の有無）など様々な条件により、プログラムがお使いになれない場合が考えられます。このため、弊社では「弊社の定格通りの信号が出ているかどうか」の点検以外、一切のサポートは致しかねますのであらかじめご了承ください。又、特定のソフトウエアに関する操作方法のお尋ねや、パソコンのレベルや環境設定に関するお問い合せにもお答えはできません。

1 ダイヤル(上)を回して「IQ信号出力」を選択します。

2 ダイヤル(下)を回して「有効」←→「無効」を選択します。

・「有効」のときメインバンド・サブバンド両方の音声は出ません。

VFO 145.000 BS FM
IQ 信号出力
無効

10-2 表示設定

この項目はディスプレイ表示や照明の設定をおこないます。

1 セットモードのメニューから≪表示設定≫を選択します。

2 SET CLR キーを押すと、表示設定のサブメニューに入ります。

VFO 145.000 BS FM
《表示設定》

10-2-1 言語設定

言語表示を日本語または英語で表示します。

1 ダイヤル(上)を回して「language／言語」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル(下)を回して「日本語」←→「English」を選択します。

VFO 145.000 BS FM
language/言語
日本語

10-2-2 照明設定

ディスプレイとキーの照明のON/OFFの設定と照明の時間を設定できます。初期値は5秒です。

1 ダイヤル(上)を回して「照明設定」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 BS FM
照明設定
5 秒

2 ダイヤル（下）を回して照明時間を選択します。

ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

→常灯↔全て消灯↔消灯↔5秒↔10秒↔15秒↔20秒↔25秒↔30秒←

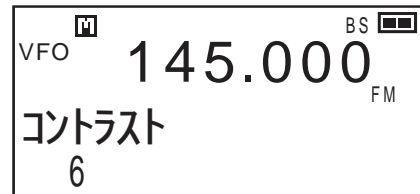
常灯	照明が常時点灯します。
全て消灯	照明とRX ランプが消灯します。
消灯	照明が消灯します。
5 秒～ 30 秒	操作すると一定時間照明が点灯します。

10-2-3 コントラスト設定

ディスプレイの色の濃さを調節できます。初期値は6です。

1 ダイヤル（上）を回して「コントラスト」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

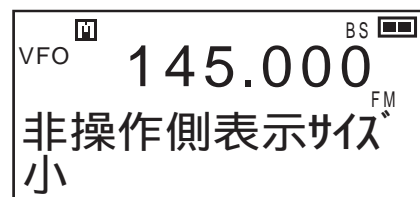
VFO 145.000 BS FM
コントラスト
6

2 ダイヤル（下）を回して1 ～ 10までの範囲で画面の濃さを選択します。

10-2-4 非操作側表示サイズ

デュアル表示で操作をしていないほうのバンドの表示サイズを切り替えます。

1 ダイヤル（上）を回して「非操作側表示サイズ」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 BS FM
非操作側表示サイズ
小

2 ダイヤル（下）を回して「小」↔「大」を選択します。

10-2-5 フォント設定

好みに応じて数字フォントを切り替えます。

1 ダイヤル（上）を回して「フォント設定」を選択します。

VFO 145.000 BS FM
フォント設定
太字

2 ダイヤル（下）を回して数字フォントを選択します。

ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

→太字↔操作バンド太字↔操作バンド細字↔細字←

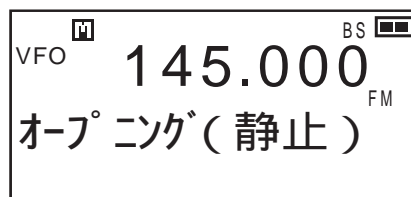
太字	すべて太字にします。
操作バンド太字	操作バンドの文字を太く、非操作バンドの文字を細くします。
操作バンド細字	操作バンドの文字を細く、非操作バンドの文字を太くします。
細字	すべて細字にします。

10-2-6 オープニング画面の設定

お好みの文字をオープニング画面（電源を入れた直後に表示される画面）に表示できます。

1 ダイヤル（上）を回して「オープニング」を選択します。

2 SET CLR キーを押すと編集画面に入ります。

VFO M BS 145.000 FM
オープニング（静止）

3 ダイヤル（左下）を回して、オープニング文字の「スライド」・「静止」・「無効」のどれかを選択します。

4 ダイヤル（右下）を回すと文字入力のカーソルを移動できます。

5 文字入力方法はメモリーネームの入力方法（☞P42）の手順をご参照ください。

文字入力をしていない場合や「無効」を選択している場合は、通常のオープニング画面になります。

10

10-3 電源設定

この項目では電源関連の設定をおこないます。

1 セットモードのメニューから≪電源設定≫を選択します。

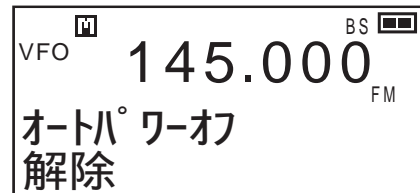
2 SET CLR キーを押すと、電源設定のサブメニューに入ります。

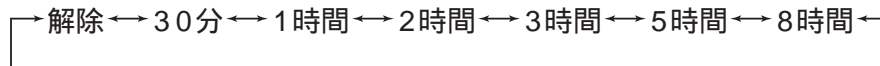
VFO 145.000 BS FM
《電源設定》

10-3-1 オートパワーオフ

APOは自動電源オフ(Auto Power Off)の略です。設定した時間、無操作状態が続くとビープ音が鳴り自動的に電源が切れます。

1 ダイヤル(上)を回して「オートパワーオフ」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 BS FM
オートパ゚ワーオフ
解除

2 ダイヤル(下)を回して自動で電源がオフになる時間を選択します。
ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

→解除⟷30分⟷1時間⟷2時間⟷3時間⟷5時間⟷8時間←

電源が切れたとき再び電源を入れるには、もう一度電源スイッチを押してください。

参考

・信号を受信しているだけではAPO時間は延長されませんが、キー操作をおこなうと、カウントがリセットされ、改めてタイマーが動作します。
・APOを設定している状態で一定時間操作しないと、スキャン中やプライオリティ機能等が動作していても電源が切れます。

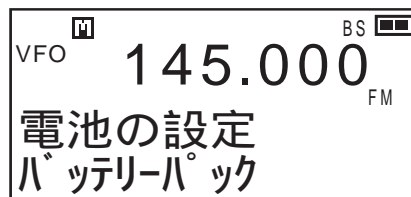
10

10-3-2 電池の設定

バッテリーレベルアイコンを正確に表示させるため、この設定をおこないます。

1 ダイヤル（上）を回して「電池の設定」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 BS FM
電池の設定
バッテリーパック

2 ダイヤル（下）を回して「バッテリーパック」←→「乾電池」を選択します。

参考

・アイコン表示
バッテリーパック選択時
乾電池選択時

注意

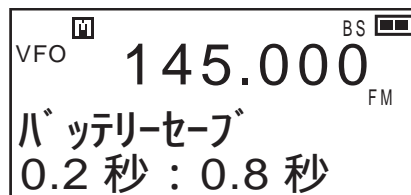
・この設定が間違っているとバッテリーレベル（残量）が正しく表示されませんが、実用上の問題はありません。
・乾電池はアルカリ乾電池を使用してください。
・市販の単三形の充電池はお使いになれません、動作の不具合、故障、液漏れ、発熱等の原因になる可能性が大きいためで、保証の対象外とさせて頂きます。

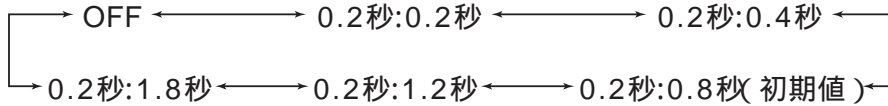
10

10-3-3 バッテリーセーブ

本機内部で電源を短い間隔でON/OFFさせることで、待機中の消費電流を抑え、バッテリーを長持ちさせる機能です。

1 ダイヤル（上）を回して「バッテリーセーブ」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 BS FM
バッテリーセーブ
0.2 秒：0.8 秒

2 ダイヤル(下)を回してON時間とバッテリーセーブ時間を選択します。

ONにするとディスプレイに BS が点灯します。
ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

・工場出荷時は0.2秒:0.8秒に設定されています。通常はOFFにする必要はありませんが、アマチュア無線のパケット通信や、航空無線でACARSのようなデータ通信を受信するときはOFFにしてください。
・信号受信中やスキャン中にはバッテリーセーブ機能は働きません。バッテリーセーブ時間を長くすると、信号を受信したときに音声の初めが途切れることがあります。

10-4 キー操作設定

本機でのキー操作を設定できます。

1 セットモードのメニューから≪キー操作≫を選択します。

2 SET CLR キーを押すと、キー操作のサブメニューが表示されます。

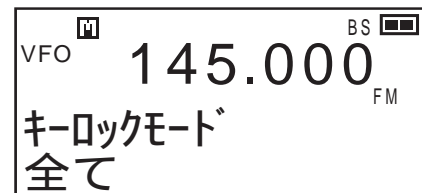
VFO M BS 145.000 FM
《キー操作設定》

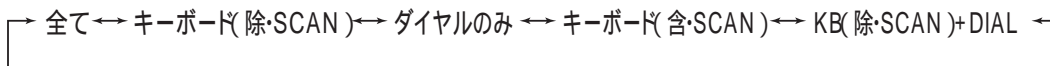
10-4-1 キーロックモード設定

キーロックをかけるキーやダイヤルの割り当てを設定します。

1 ダイヤル(上)を回して「キーロックモード」を選択します。

VFO M BS 145.000 FM
キーロックモード
全て

10

2 ダイヤル(下)を回してキーロックモードの種類を選択します。
ダイヤルを回すごとに次のように切り替わります。

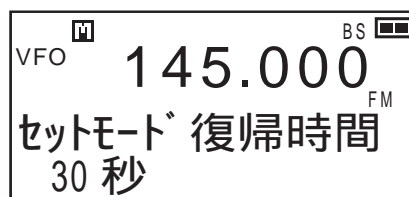
→ 全て ↔ キーボード(除･SCAN) ↔ ダイヤルのみ ↔ キーボード(含･SCAN) ↔ KB(除･SCAN)+DIAL ←

全て	すべての操作をロックします。
キーボード(除・SCAN)	F TUNE/SCAN キーを除くキーボードの操作をロックします。
ダイヤルのみ	ダイヤル操作をロックします。※
キーボード(含・SCAN)	キーボード操作をロックします。
KB(除･SCAN)+DIAL	F TUNE/SCAN キーを除くキーボードとダイヤルの操作をロックします。

※ ダイヤルの「音量」「スケルチ」と[MONI]キーは操作可能。

10-4-2 セットモードの復帰時間

何も操作をしないときに、セットモードを自動的に終了する時間を設定する機能です。手動と自動(5秒 ～ 5分)を選択できます。

1 ダイヤル(上)を回して「セットモード復帰時間」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 BS FM
ｾｯﾄﾓｰﾄﾞ 復帰時間
30 秒

2 ダイヤル(下)を回して「手動」←→「5秒」～「5分」を選択します。

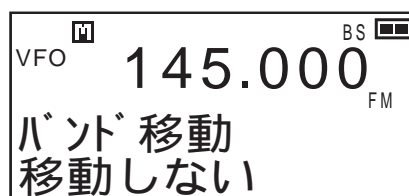
手動(初期値)	[FUNC]キーを押すまでセットモードで待機します。
5 秒～ 5 分	キー操作を設定時間おこなわないと自動的にセットモードを終了します。変更した設定は保存されます。

10-4-3 バンド移動の設定

VFOモードでのスキャンやダイヤル操作中にバンドの上端、下端に周波数がきたとき、そのバンド内の逆の端に戻るか次のバンドに移動するかを設定します。

1 ダイヤル(上)を回して「バンド移動」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 BS FM
ﾊﾞﾝﾄﾞ 移動
移動しない

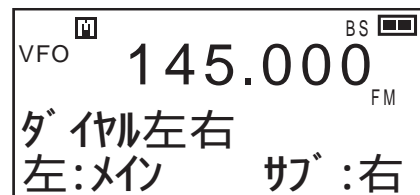
10

2 ダイヤル（下）を回して「移動しない」←→「移動する」を選択します。

移動しない	バンド内の逆の端に戻ります。
移動する	次のバンドに移動します。

10-4-4 ダイヤル左右の機能設定

左右にあるダイヤルの機能を入れ替えます。

1 ダイヤル（上）を回して「ダイヤル左右」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 FM BS
ﾀﾞｲﾔﾙ左右
左:ﾒｲﾝ　サﾌﾞ:右

2 ダイヤル（下）を回して
「左：メイン　サブ：右」←→「左：サブ　メイン：右」
を選択します。

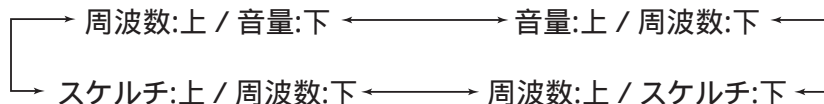
10-4-5 ダイヤル上下の機能設定

ダイヤルの上下の機能を入れ替えます。

1 ダイヤル（上）を回して「ダイヤル上下」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 FM BS
ﾀﾞｲﾔﾙ　周波数:上
上下　音量 :下

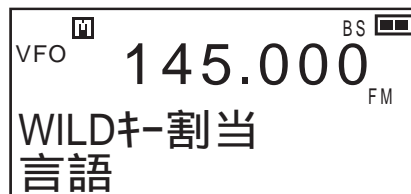
2 ダイヤル（下）を回してダイヤルの上下の機能を選択します。
ダイヤルを回すごとに次のように切り替わります。

周波数:上／音量:下 ←→ 音量:上／周波数:下
スケルチ:上／周波数:下 ←→ 周波数:上／スケルチ:下

参考
・音量、スケルチのうち割り当てられなかった機能は、ダイヤルを押すと調整できます。

10-4-6 WILDキー割当

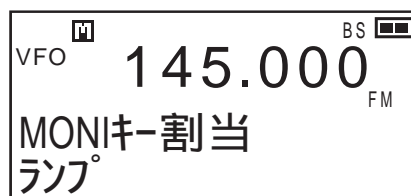
WILD 1 キーにセットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。よく使うメニューを設定しておくと、すばやく設定を変更できるようになります。

1 ダイヤル（上）を回して「WILDキー割当」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 BS FM
WILDｷｰ割当
言語

2 ダイヤル（下）を回して WILD 1 キーに割り当てたい機能を選択します。

10-4-7 MONIキー割当

［MONI］キーにセットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。よく使うメニューを設定しておくと、すばやく設定を変更できるようになります。

1 ダイヤル（上）を回して「MONIキー割当」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤル（下）を回して［MONI］キーに割り当てたい機能を選択します。

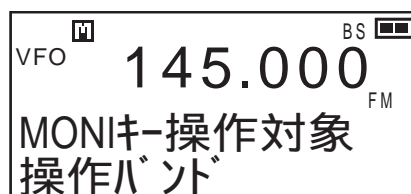
VFO 145.000 BS FM
MONIｷｰ割当
ﾗﾝﾌﾟ

10

10-4-8 MONIキー操作対象バンドの設定

［MONI］キーを押したときの操作対象となるバンドを設定できます。

1 ダイヤル（上）を回して「MONIキー操作対象」を選択します。

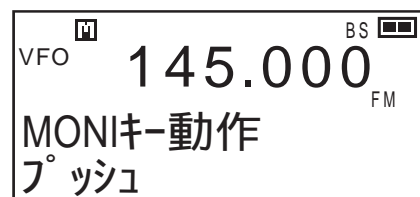
VFO 145.000 BS FM
MONIｷｰ操作対象
操作ﾊﾞﾝﾄﾞ

2 ダイヤル（下）を回して［MONI］キーの操作対象となるバンドを選択します。

両バンド	［MONI］キーの操作対象が両バンドになります。
メインバンド	［MONI］キーの操作対象がメインバンドになります。
サブバンド	［MONI］キーの操作対象がサブバンドになります。
操作バンド	［MONI］キーの操作対象が操作バンドになります。

10-4-9 MONIキー動作の設定

［MONI］キーを押したときの動作を設定できます。

1 ダイヤル（上）を回して「MONIキー動作」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO M BS 145.000 FM
MONIキー動作
プッシュ

2 ダイヤル（下）を回して「プッシュ」←→「ホールド」を選択します。

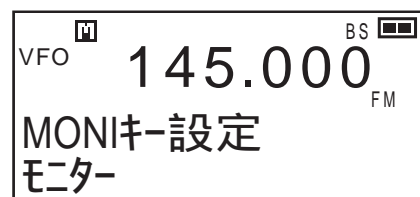
プッシュ	［MONI］キーを押しているときだけモニター機能、またはミュート機能が動作します。
ホールド	［MONI］キーを押し、もう一度押すまでモニター機能、またはミュート機能が動作します。

10

10-4-10 MONIキー設定

［MONI］キーを押したときの動作をモニター、またはミュートに設定できます。

1 ダイヤル（上）を回して「MONIキー設定」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO M BS 145.000 FM
MONIキー設定
モニター

2 ダイヤル（下）を回して「モニター」←→「ミュート」を選択します。

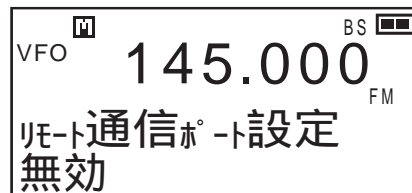
モニター	［MONI］キーを押すと一時的にスケルチを開きます。
ミュート	［MONI］キーを押すと一時的に音を消します。

10-4-11 リモート通信ポート設定

パソコンのＵＳＢ端子に接続し、ERW-7ケーブル同様にメモリー編集ソフトをご利用になれるほか、ＤＪ-Ｘ11の一部機能をリアルタイムにコントロールしたり、バッテリーパックを充電したり機能が拡張できるケーブルがオプションのERW-8です。これらの操作には別途配布するソフトウエアが必要です。ERW-8は充電スタンドEDC-174を併用します。この設定は、ERW-8を使用する時に必要です。

1 ダイヤル（上）を回して「リモート通信ポート設定」を選択します。

2 ダイヤル（下）を回して「有効」⟷「無効」を選択します。

VFO 145.000 BS FM
ﾘﾓｰﾄ通信ﾎﾟｰﾄ設定
無効

参考

・空のバッテリーパックをフル充電するには約8時間掛かります。
・この設定を「有効」にすると、ERW-7は使用できなくなります。

10-5 スキャン設定

本機に搭載されている様々なスキャン機能の設定をおこないます。

1 セットモードのメニューから≪スキャン設定≫を選択します。

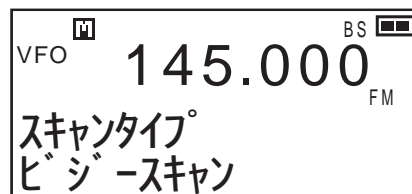
2 SET CLR キーを押すと、スキャン設定のサブメニューに入ります。

VFO 145.000 BS FM
《ｽｷｬﾝ設定》

10-5-1 スキャンタイプ設定

スキャンの再開条件を選択します。

1 ダイヤル（上）を回して「スキャンタイプ」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 BS FM
ｽｷｬﾝﾀｲﾌﾟ
ﾋﾞｼﾞｰｽｷｬﾝ

2 ダイヤル（下）を回して「ビジースキャン」「1秒（タイマースキャン）」〜「25秒（タイマースキャン）」「1秒（時間指定）」〜「5分（時間指定）」を選択します。

次の表を参考にお好みの設定にします。

ビジースキャンモード	スキャン停止後、信号がなくなればスキャンを再開します。
タイマースキャンモード	スキャン停止後、受信中でも設定時間が経過するとスキャンを再開します。タイマーの時間は1秒〜 25 秒の間で設定できます。
時間指定スキャンモード	信号の有無に関係なく、指定した時間が経過すると自動的に次のチャンネルに移動して受信します。スケルチが開いている場合でも動作します。停止する時間は1秒〜 5分の間で設定できます。

参考

- 時間指定スキャンは、指定した時間が経過すると信号の有無に関わらず自動的に次のチャンネルに移動するスキャンモードです。スケルチが開放されている場合でも動作するので、ACARS（ AircraftCommunication Addressing and Reporting System）などのデータ通信を受信するときに、複数チャンネルのデータを特定の時間間隔で受信したい場合や、1つのチャンネルごとに時間をかけてモニターしながらスキャンしたいといった場合に便利な機能です。
- この機能はVFOモード、プリセットモード、メモリーモードで使用できます。

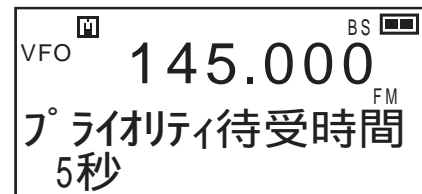
10

10-5-2 プライオリティ待受時間設定

プライオリティ機能での待受時間を設定します。

1 ダイヤル（上）を回して「プライオリティ待受時間」を選択します。

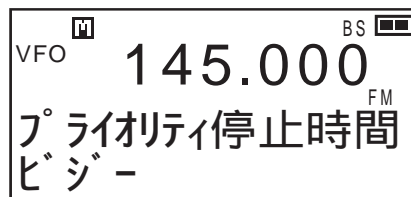
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO M 145.000 BS FM
プライオリティ待受時間
5秒

2 ダイヤル（下）を回して、5 〜 60秒の範囲で、5秒ごとに待ち受け時間を選択します。

10-5-3 プライオリティ停止時間設定

プライオリティ機能で、プライオリティチャンネルを受信したときに停止する時間を設定します。

1 ダイヤル（上）を回して「プライオリティ停止時間」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 FM
プ ライオリティ停止時間
ビ ジ ー

2 ダイヤル（下）を回して「ビジー」←→「1秒」〜「25秒」を選択します。
ビジーモードと1秒〜 25秒のタイマーモードが選択できます。

10-5-4 スキャン時のスキップ

サーチパスメモリーチャンネルに登録した周波数やスキップ指定したメモリーチャンネルをスキップする（有効）かスキップしない（無効）かを選択できます。
サーチパスメモリーチャンネルに登録した周波数は、VFOスキャン、プログラムスキャン、プリセットスキャン(テレビは除く)のときにスキップされ、スキップ指定したメモリーチャンネルはメモリースキャン時にスキップされます。
メモリースキャン時には、サーチパスメモリーチャンネルに登録した周波数はスキップされません。

1 ダイヤル（上）を回して「スキップ設定」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

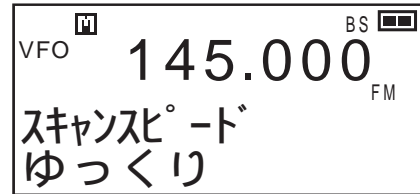
VFO 145.000 FM
スキップ 設定
無効

2 ダイヤル（下）を回して「有効」←→「無効」を選択します。

10-5-5 スキャンスピード設定

スキャンする速さを変える設定です。

1 ダイヤル(上)を回して「スキャンスピード」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

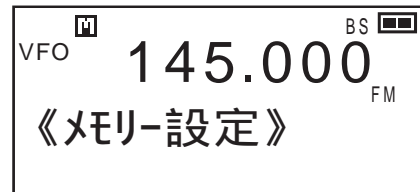
VFO 145.000 BS FM
スキャンスピード
ゆっくり

2 ダイヤル(下)を回して「ゆっくり」、「普通」、「速い」の3段階から選択します。

10-6 メモリー設定

この項目ではメモリー機能の設定をおこないます。

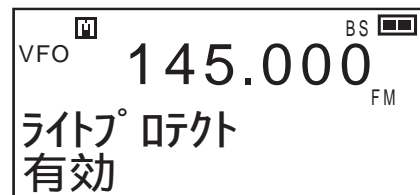
1 セットモードのメニューから≪メモリー設定≫を選択します。

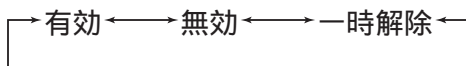
2 SET CLR キーを押すと、メモリー設定サブメニューに入ります。

VFO 145.000 BS FM
《メモリー設定》

10-6-1 ライトプロテクト(メモリー保護)機能

メモリーモードに登録されているチャンネルを編集(上書き、消去)できるようにします。

1 ダイヤル(上)を回して「ライトプロテクト」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 BS FM
ライトプロテクト
有効

2 ダイヤル(下)を回してライトプロテクト設定を選択します。
ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

→有効←→無効←→一時解除←

設定	説明
有効	ライトプロテクトを有効にします。登録されたメモリーは編集できません。
無効	ライトプロテクトを無効にします。登録されたメモリーが編集できるようになります。
一時解除	登録されたメモリーが編集できます。一度電源を入れなおすと、自動で有効になります。

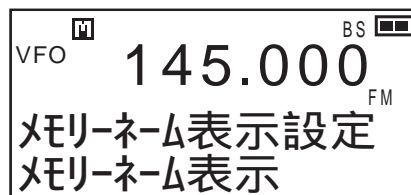
メモリーチャンネルの消去は「メモリーチャンネルの消去」(☞P38)を参照してください。

10

10-6-2 メモリーネーム表示設定

メモリーネームを設定している場合に、メモリーネーム表示にするか周波数表示にするかを選択することができます。

1 ダイヤル(上)を回して「メモリーネーム表示設定」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 FM
メモリーネーム表示設定
メモリーネーム表示

2 ダイヤル(下)を回して「メモリーネーム表示」←→「周波数表示」を選択します。

「メモリーネーム表示」にしている時でも[MONI]キーを押している間だけ一時的に周波数が表示されます。
同様に、「周波数表示」にしている時は、[MONI]キーを押している間だけ一時的にメモリーネームが表示されます。

10-7 音設定

この項目では音に関する設定をおこないます。

1 セットモードのメニューから≪音設定≫を選択します。

2 SET CLR キーを押して、音設定のサブメニューに入ります。

VFO 145.000 FM
《音設定》

10-7-1 操作音設定

キー操作をおこなったときに鳴る音をON←→OFFする機能です。

1 ダイヤル(上)を回して「操作音設定」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 FM
操作音設定
有効

2 ダイヤル(下)を回して「有効」←→「無効」を選択します。

注意

・操作音設定を無効にすると、ベル機能のアラームも鳴りません。

10-7-2 ベル機能

信号を受信すると、ベルの音でお知らせする機能です。

1 ダイヤル(上)を回して「ベル機能設定」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

VFO M BS
145.000 FM
ベル機能設定
無効

2 ダイヤル(下)を回して無効、メイン受信時、サブ受信時、どちらか受信時から選択します。

ベル機能を設定するとディスプレイに ♪ が点灯します。
信号を受信すると ♪ が点滅しベル音がなります。次に操作をおこなうまで ♪ が点滅しているので、不在のときに信号を受信したことがわかる「着信確認」としても使えます。

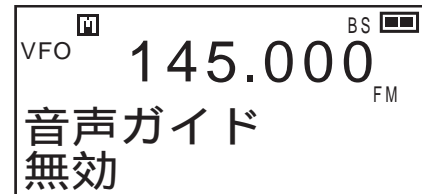
無効	ベルは鳴りません。
メイン受信時	メインバンドで信号を受信すると鳴ります。
サブ受信時	サブバンドで信号を受信すると鳴ります。
どちらか受信時	両バンドのどちらかが受信すると鳴ります。

10-7-3 音声ガイド機能

日本語の発声で、本機の表示周波数を読み上げてくれたり盗聴器発見機能での検出結果を教えてくれる機能です。

●音声ガイド機能の設定

1 ダイヤル（上）を回して「音声ガイド」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

VFO 145.000 BS FM
音声ガイド
無効

2 ダイヤル（下）を回して「無効」、「キー操作時」、「盗聴器発見連結時」、「両方」から選択します。

無効	音声ガイドは動作しません。
キー操作時	キーボード操作時に音声で案内します。[MONI]キーを押すと選択している周波数を読み上げます。
盗聴器発見連結時	盗聴器発見機能の連結動作時で盗聴器と思われる物を検出したかどうかを音声で案内します。（モード連結（☞P71）が「OFF」のときは動作しません。）
両方	キー操作時・盗聴器発見連結時両方の音声ガイドが有効になります。

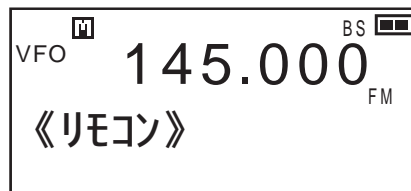
10

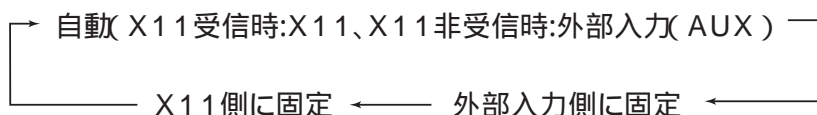
参考

・音量は変えられます。（☞P25）
・キー入力時のガイドでは、キーを早く押しすぎたり、同じキーを押し続けていると発声が不明瞭になることがあります。

10-8 リモコン設定

オプションのリモコン（EDS-12）を使うときのメニューです。
リモコンに下記の機能を自由に割り当てることができます。
割り当てられるボタンはA～Dの4個あります。

1. セットモードのメニューから≪リモコン≫を選択します。
2. SET CLR キーを押して、リモコンのサブメニューに入ります。
3. ダイヤル(上)を回して「リモコンA～Dボタン」を選択します。
4. ダイヤル（下）を回して［A ～ D］キーに割り当てたい機能を選択します。

初期割り当て	メニュー名	機　能
KEY A	操作バンド(MAIN/SUB)の変更	
KEY B	バンドの切替	
KEY C	周波数アップ	長く（約2秒間）押すとスキャン
KEY D	周波数ダウン	長く（約2秒間）押すとスキャン
	入力音声の選択	※押すたびに切り替わる（☞P103）参照
	MONIキー	
	V/P/Mキー	
	音量アップ	
	音量ダウン	
	スケルチレベルアップ	
	スケルチレベルダウン	
	アッテネーター	
	アンテナの切替	
	バーアンテナ	
	プライオリティ	
	受信感度	
	AFトーン	
	操作音	
	ベル	
	トーンスケルチ	
	逆トーンスケルチ	
	DCS	
	空線信号キャンセラー	

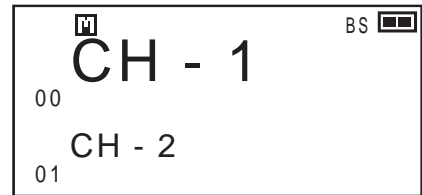
※ → 自動（X11受信時:X11、X11非受信時:外部入力（AUX）→ 外部入力側に固定 → X11側に固定 →

11. チャンネル表示モード

メモリーモードで、周波数のかわりにバンク・チャンネル番号のみを表示し、その他の機能も制限できるモードです。

1 あらかじめメモリーを登録しておきます。

2 メモリーモードにして電源を切ります。

3 ［MONI］キーと MW V/P/M キーを押しながら電源を入れます。

ディスプレイに右のように表示されます。
解除する場合は、一度電源を切り、［MONI］キーと MW V/P/M キーを押しながら電源を入れます。

参考

・チャンネル表示モード時は、バンク・チャンネルの変更、音量調整、スケルチ調整、MONI/MUTE機能、メモリースキャン、キーロック以外の操作はできません。
・リセットをおこなってもチャンネル表示モードは解除できません。

11

12. クローン／PC接続機能

クローン機能とは、DJ-X11のデータを別のDJ-X11へコピーする機能です。
2台のDJ-X11をケーブルで接続し、送り側に設定している情報(メモリーデータを含む)を受け側へコピーします。
また、本機をパソコン(PC)に接続して、ソフトウエアでメモリーチャンネルや、セットモードの設定などを編集できます。

12-1 接続機能とイヤホン端子の出力

本機はケーブル接続した別のＤＪ－Ｘ１１に設定やメモリー内容をコピーするケーブルクローン機能の他、パソコンと接続することで下記の操作ができるようになります。使いたい機能によって接続ケーブルが変わります。又、イヤホン端子に外部スピーカーやイヤホンをおつなぎになるときの注意点もここで説明します。

	ケーブルクローン	ＰＣ接続		
機能	元になるＤＪ－Ｘ１１のメモリーや設定を別のＤＪ－Ｘ１１にコピーする。	専用の無償ユティリティソフトを使って、機能やメモリーの設定をする。	リモート機能を使って、ターミナルソフトや専用ソフトを介してＤＪ－Ｘ１１の主な機能をパソコン上からリアルタイムに操作する。	オーディオ信号、検波信号やＩＱ信号を出力させて受信用ソフトを使う。
ケーブル	市販の３.５mmφステレオミニプラグ(3極)が両端についた、抵抗無しのオーディオケーブル。オーディオや家電製品のオプションとして市販されています。	弊社オプションのＥＲＷ－７又はＥＲＷ－８(生産を終了したシリアルポート用のＥＲＷ－４Ｃもお使いになれます)	弊社オプションのＥＲＷ－８	市販の３.５mmφステレオミニプラグ(３極)が両端についたオーディオケーブル。オーディオや家電製品のオプションとして市販されています。ＰＣへの入力ポートなどの条件により抵抗入り、無しを自分で選ぶ必要があります。
ＤＪ－Ｘ１１の接続	両方のイヤホン端子	ＥＲＷ－７(4C)：イヤホン端子 ＥＲＷ－８ EDC－１７４のUSB端子	ＥＤＣ－１７４のＵＳＢ端子	ＤＪ－Ｘ１１のイヤホン端子
外部機器の接続	ー	パソコンのＵＳＢ端子(ＥＲＷ－４Ｃはシリアルポート)	パソコンのＵＳＢ端子	パソコンのＬＩＮＥ ＩＮ又はＭＩＣ端子
備考	ー	ファームウエアのアップデートにも使えます。	ユティリティソフトやファームウエアのアップデートにも使えます。	ー
クローンモードに入る	必要([ＭＯＮＩ]キーを押しながら電源を入れる)	必要([ＭＯＮＩ]キーを押しながら電源を入れる)	不要	不要

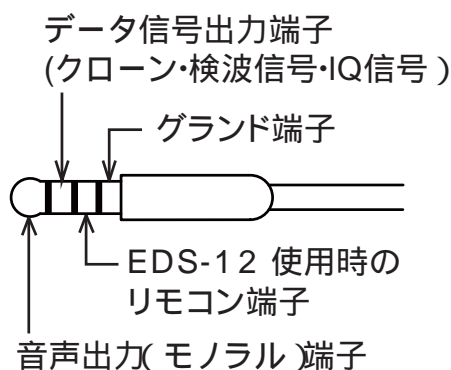
●全ての接続に共通の注意事項

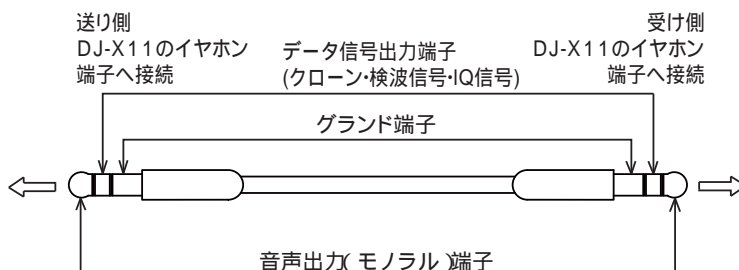
・全ての接続をおこなうときは、本機・接続機器とも電源を切った状態でおこなってください。

・本機のイヤホン端子は3.5mmφの４極ステレオミニプラグを使用できるようになっています。配線は下記の図をご覧ください。尚、ＥＤＳ－１２使用時のリモコン端子はグランドに落ちても支障が無くケーブルクローンやＰＣ接続には不要のため、手に入りやすい３極プラグ付きケーブルもお使いになれます。

●ご使用になれるプラグについて

（４極プラグの配線）

本機のイヤホン端子の配線は以下のようになっています。ケーブルを自作する際の参考にしてください。端子に出力される信号は本機側で変えることはできません。自作するときに配線を変えるか、お使いになる受信用ソフトの入力設定を変更するなどして対応させてください。

（３極プラグを使ったケーブルの使用）

トップから音声出力（モノラル）端子・データ信号出力端子（クローン・検波信号・IQ信号）・グランド端子になります。4極プラグでのＥＤＳ－１２のリモコン信号端子部分は無視して構いません。

（２極モノラルプラグの使用）
イヤホンや外部スピーカー、ＡＣＡＲＳソフトや低速パケットＴＮＣへの接続を出力するだけなら、モノラル２極の3.5mmφプラグのケーブルやイヤホン、外部スピーカーがお使いになれます。又、そのような他社製を含むイヤホンでも本機のイヤホンアンテナ機能をお使いいただけます。このときは検波信号やＩＱ信号の出力をさせないように設定してください。

12-2 データを受け取る側の操作

別のDJ-X11からデータをコピーする場合や、パソコンで編集したデータを受け取るときに、この操作を行います。

1 電源を切ってステレオミニプラグコードをイヤホン端子に接続します。
通常の3極ステレオミニプラグコードも使用できます。

2 ［MONI］キーを押しながら［POWER］キーを押して電源を入れます。
ディスプレイに「CLONE」と表示されクローンモードになります。

CLONE 57600bps

3 この状態で送り側のDJ-X11あるいはPCからのデータが送られてくるのを待ちます。

4 データの転送が完了すると自動でVFOモードに戻ります。

注意

・ステレオミニプラグコードは、内部抵抗のない直結タイプを使用してください。
・クローン機能でデータ転送中にはキー操作をしないでください。
・データ転送中はケーブルを抜かないでください。ケーブルが抜けると送り側でディスプレイに「ERROR」と表示され、データ転送が中断されます。
・クローン機能を使用してデータ転送をすると、受け側のデータ内容はすべて送り側のデータ内容に置き替わってしまいます。受け側にデータがある場合は注意してください。

12-3 データを送る側の操作

この操作はPC接続には不要です。

1 電源を切ってステレオミニプラグコードをイヤホン端子に接続します。

2 [MONI]キーを押しながら⏻[POWER]を押して電源を入れます。
ディスプレイに「CLONE」と表示されクローンモードになります。

3 「CLONE」と表示された状態でダイヤルを押すとディスプレイに右のように表示され、送り側のデータを受け側へ転送します。

数字が増えます

CLONE 57600bps
writing...
＊＊＊＊＊＊

4 転送が完了するとディスプレイに「FINISH!!」と表示されます。
ディスプレイに「ERROR」と表示された場合は再度、手順 **1** からやり直してください。

CLONE 57600bps
FINISH!!

5 電源を切ります。
電源を切らないとクローンモードは解除されません。

12

13. リセット機能

注意

・メモリーモードで消去されたデータは元に戻すことはできませんので十分にご注意ください。

本機にはセットモードやディスプレイ表示のみが初期化されるパートリセットと、メモリーデータも消去するオールリセットの2種類があります。

13-1 リセット

DJ-X11を工場出荷時の状態に戻します。
操作がわからなくなったときや、正常に動作しなくなったときに使用します。

●パートリセット

1 本機の電源を切ります。

2 [FUNC]キーを押しながら電源を入れます。

3 ディスプレイに「リセット完了」と表示されたら、キーを離します。

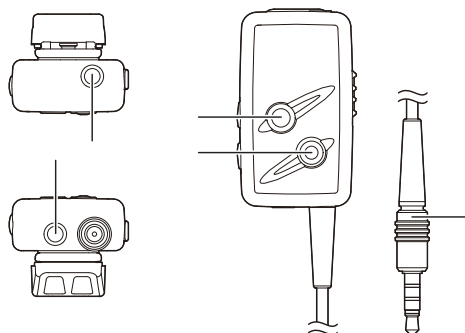
●オールリセット

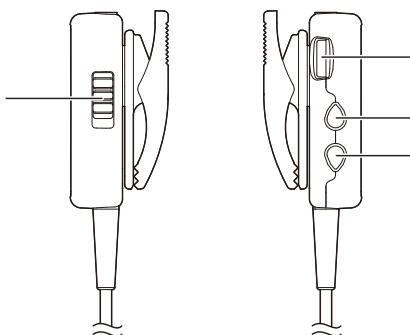
通常は使いません、メモリーデータをゼロから自分で編集したい等、特別な場合に上級ユーザーがおこなうリセットです。操作方法は（☞P106）を参照してください。

13

14. オプションの使いかた

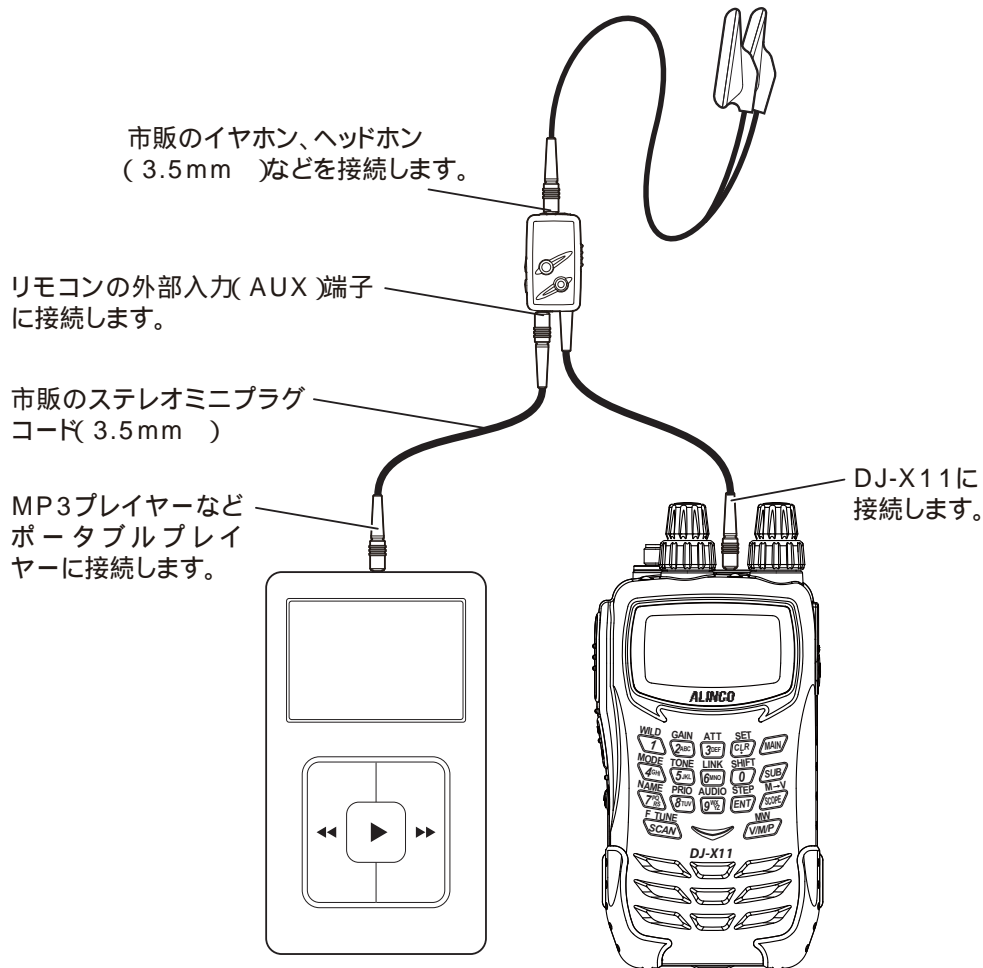
14-1 リモコンの使いかた

14-1-1 上面部、下面部、前面部

No.	名　称	機　能
①	イヤホン	イヤホン出力端子です。 ここにイヤホンなどを接続します。
②	操作ボタンA	操作バンド（MAIN/SUB)を変更します。
③	操作ボタンB	バンドを切り替えます。
④	イヤホンコード	DJ-X11のイヤホン端子へ接続します。
⑤	外部入力（AUX)端子	ここへMP3プレイヤーなどポータブルプレイヤーを接続します。

14-1-2 側面部

No.	名　称	機　能
⑥	ボリューム	音量を調整します。音声入力⑤からの音量変更はできません。
⑦	操作ボタンC	周波数をアップします。
⑧	操作ボタンD	周波数をダウンします。
⑨	ロックスイッチ	リモコンのキーロックができます。

14

14-2 リモコンのつなぎかた

リモコンは以下のようにつなぎます。

14-3 リモコンの機能

・イヤホンやヘッドホンはモノラル・ステレオの両方とも使用できます。
・MP3プレイヤーなどポータブルプレイヤーを接続して通常は音楽を聞いているときに、スケルチが開くとDJ-X11へ自動で切り替わります。
・A・B・C・Dの各操作ボタンには自由に機能を割り当てられます。(☞P95)を参照してください。

14

15. 保守・参考

15-1 故障とお考えになる前に

次のような症状は故障ではありませんのでよくお確かめになってください。
処置をしても異常が続くときは、リセットをすることで症状が回復する場合があります。

症状	原因	処置
電源を入れても、ディスプレイに何も表示されない。	電池が接触不良をおこしている。	電池の電極の汚れなどを取り除く。
	電池が消耗している。	充電をおこなうか乾電池を新品に交換する。
	電源スイッチをはなすのが早すぎる。	電源スイッチを長く(約1秒)押す。
スピーカーから音が出ない。 受信音がキャッチできない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定する。
	スケルチレベルが高すぎる。	適切なスケルチレベルに設定する。
	トーンスケルチやDCSが働いている。	トーンスケルチやDCSを解除する。
	ミュート機能が働いている。	ミュート機能を解除する。
周波数表示が異常になっている。	CPUが誤作動している。	外部電源および電池を外し、10秒以上待ってから取り付ける。それでも解決しないときはリセットする。
スキャンができない。	スケルチが開いている。	スケルチを雑音の消える位置に設定する。
周波数、メモリーチャンネルNo.が切り替わらない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
受信中に表示が点滅したり消えたりする	電池が消耗している。	充電をおこなうか乾電池を新品に交換する。
充電しない。	充電器の充電端子が汚れている。	乾いた布などで充電端子や充電池パック側の接触部分の汚れをふき取ってください。

・ アフターサービスやサポートが必要な場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
最寄りの販売店の検索には、弊社ホームページ（http://www.alinco.co.jp/）の「販売店のご案内」メニューをご利用ください。
・ 本製品はウエブサイトで更新用のファームウエア（受信機内部のチップに書かれた動作プログラム）を提供する場合があります。
この理由からお客様がお使いのファームウエアによっては、本書の説明と異なった動きをすることがあります。
・ 本製品についてサービスセンターにお問い合わせになる際は、次の方法でファームウエアのバージョンをあらかじめご確認いただきますようお願い申し上げます。
1：「FUNC」キーを1秒ほど押して、キーロックをかけます。
2：NAME 7 PQRS キーを10回連続で押すとバージョン番号が表示されます。
3：［FUNC］キーを押すと運用モードに戻ります。

15-2 オプション一覧

・ソフトケース（ESC-50）
・カールコードイヤホン（EME-26）
・プチ型イヤホン（EME-6）
・シガーライターケーブル（EDH-33）
・リモートコントローラー (EDS-12)
・PC接続ケーブル（ERW-7：3.5φ-USB）
・PC接続ケーブル（ERW-8：miniUSB-USB）

15

15-3 アフターサービスについて

■保証書

保証書は、所定事項(ご購入店名、ご購入日)への記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。ご購入時の記載、またはそれを証明するシート等別の書類が無い場合は無効となりますので充分ご注意ください。

■保証期間

お買い上げの日より1年間です。
正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に有効な保証書を添えて、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。保証書の規定にしたがって修理いたします。

■保証期間が経過した場合

お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。
アフターサービスについてご不明な点がありましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

アフターサービスについてご不明な点がありましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

■製造中止製品に対する保守年限に関して

製造中止製品に関しては、下記の一定期間保守部品を常備しております。しかし、不測の事態により在庫が無くなる場合もあり、修理が行えないこともありますのでご了承願います。
※補修用部品の保証期間は、製造中止後5年です。
※弊社ホームページ(http://www.alinco.co.jp/ → 電子事業 → Q&A → アフターサービス)にQ&Aを設けてカスタマーサービスに関する情報を掲載しておりますのでご参照ください。

参考

・全てのメモリーチャンネルの消去を含むオールリセットの方法
通常のリセットは(☞P101)に記載されています。

1. [FUNC]キー・[WILD 1]キー・[MW V/P/M]キーを押しながら電源を入れます。
2. ディスプレイに「オールリセット完了」と表示されたら、キーを離します。

注意

・クローンユティリティにバックアップをしていない限りリセット後にメモリーを元に戻せません。

17. 定格

受信可能 周波数範囲	受信周波数範囲(メインバンド)0.05 ～ 1300MHz 受信周波数範囲(サブバンド)118 ～ 171MHz、336 ～ 470MHz	
周波数ステップ	0.05/0.1/5/6.25/8.33/10/12.5/15/20/25/30/50/100/125/150/200/500kHz/1MHz	
電波型式	AM/SSB/CW/FM/WFM	
電源電圧	動作可能範囲(外部電源端子)DC5.4 ～ DC6V 標準バッテリー 4.5V(単三電池) 3.7V(リチウムイオン)	
消費電流	受信定格出力時 モノバンド:約130mA デュアルバンド:約180mA(DC6.0V)	
使用温度範囲	-10℃ ～ +60℃	
外形寸法	幅61 ×高さ106 ×奥行き38mm (突起物含まず)	
本体重量	約235g (アンテナ、リチウムイオンバッテリーパック含む)	
受信部	受信方式(メインバンド):	AM/SSB/CW/FM トリプルスーパーヘテロダイン WFM ダブルスーパーヘテロダイン
	受信方式(サブバンド):	AM/FM ダブルスーパーヘテロダイン
	中間周波数: AM/SSB/CW/FM (メインバンド)	第1 中間周波数 243.95MHz 第2 中間周波数 45.055MHz 第3 中間周波数 455kHz
	WFM(メインバンド):	第2 中間周波数 10.7MHz
	AM/FM(サブバンド):	第1 中間周波数 51.65MHz 第2 中間周波数 450kHz
	受信感度:メインバンド	0.050 ～ 0.531MHz(AM):5dBu(10dB S/N)typ 0.531 ～ 1.62MHz(AM):2dBu(10dB S/N)typ 1.62 ～ 76MHz(AM):-5dBu(10dB S/N)typ 1.62 ～ 76MHz(SSB,CW):-10dBu(10dB S/N)typ 1.62 ～ 76MHz(FM):-15dBu(12dB SINAD)typ 76 ～ 108MHz(WFM):-3dBu(12dB SINAD)typ 108 ～ 136MHz(AM):-6dBu(10dB S/N)typ 136 ～ 174MHz(FM):-14dBu(12dB SINAD)typ 175 ～ 221.75MHz(WFM):-6dBu(12dB SINAD)typ 221.8 ～ 336MHz(AM):0dBu(10dB S/N)typ 336 ～ 475.75MHz(FM):-13dBu(12dB SINAD)typ 475.75 ～ 770MHz(WFM):-13dBu(12dB SINAD)typ 770 ～ 1260MHz(FM):-9dBu(12dB SINAD)typ 1260 ～ 1300MHz(FM):-6dBu(12dB SINAD)typ
	受信感度:サブバンド	118 ～ 136MHz(AM):-3dBu(10dB S/N)typ 136 ～ 170MHz(FM):-14dBu(12dB SINAD)typ 336 ～ 470MHz(FM):-14dBu(12dB SINAD)typ
	選択度:	AM/FM-6dB/12kHz 以上:-60dB/35kHz 以下 SSB/CW-6dB/2kHz 以上:-50dB/7.5kHz 以下 WFM-6dB/180kHz±40kHz:-20dB/470kHz 以下
	低周波出力:	最大100mW 以上(8 Ω負荷時)

＊定格、仕様は予告なく変更されることがあります。

17